

## I-1 学部・学科の教育目的・目標

### 学部・学科の 教育目的・目標

社会福祉学部は、建学の精神であるキリスト教精神による「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた人間性を涵養することを土台に、地域の福祉と生活上の困難を抱える人々の自立および生活の質の向上を支援するために、専門機関や施設、多種職との連携、協働して、その責務を果たすことができる高度な知識・技術と実践力を兼ね備えた福祉専門職者を養成することを目的とします。

学部の教育目的を達成するために以下のように教育目標を掲げます。

- (1) キリスト教精神による「生命の尊厳と隣人愛」について理解し、専門職としての高い倫理観に基づく態度を身につける。
- (2) さまざまな対象者の有する背景や課題を科学的、論理的、総合的に理解し支援するために必要な教養と社会福祉分野の理論や知識を体系的に修得する。
- (3) 受容的・共感的態度を形成しつつ、社会福祉の基本的なコミュニケーションや支援の技術を修得する。
- (4) 対象者の特性に応じ基礎的な社会福祉分野（社会福祉・介護福祉・保育）の知識や技能、関連領域との知識を活用し、設定した課題について考察する力を身につける。
- (5) 実践の場で必要とされる社会福祉専門職としての理論や知識、技術等を総合的に活用し、対象者の課題解決につなげることができる力を身につける。
- (6) 対人援助・社会支援において、他者の役割が理解でき、自らの役割を果たしながら多種職や組織と連携・協働できるように人間性を養い、知識・技術を修得する。
- (7) 多様な文化や価値観を理解し、社会福祉に関する地域社会や国際社会に広く視野を広げ貢献できる力を身につける。

なお、幼稚園教諭については、上記に加えて下記の通りとします。

- (1) 幼児教育に関する確かな知識・理論や技能及び豊かな表現力を身につけている。
- (2) 幼児教育者としてのふさわしい教養を身につけて、使命感と責任感に基づいた確かな実践力を備えている。

各学科の目的・目標は以下の通りです。

#### (1) 社会福祉学科

社会福祉学科は、地域と支援を必要とする人々の生活を理解し、科学的に評価するとともに、相談援助ならびに社会福祉サービスの開発および地域社会への働きかけを行う福祉専門職を養成することを目的とする。そのために必要な相談援助、社会福祉サービスの仕組みと開発、関係多職種および地域住民との連携、協働の知識と技術を修得することを目標とする。

#### (2) 介護福祉学科

介護福祉学科は、介護実践を通して生活支援を必要とする人々の生活を理解し、科学的に評価するとともに、介護福祉援助、相談援助ならびに介護福祉サービスの開発および地域社会への働きかけを行う福祉専門職を養成することを目的とする。そのために必要な介護福祉援助技術、介護福祉サービスの仕組みと開発、関係多職種との連携、協働の知識と技術を修得することを目標とする。

#### (3) こども教育福祉学科

こども教育福祉学科は、保育および幼児教育などの専門性と実践力に加え、家族に対する相談援助ならびに子育てしやすい地域環境づくりを行う専門知識と技術を身につけたこども教育福祉の専門職を養成することを目的とする。そのために必要な保育と幼児教育の専門知識、技術および社会福祉に関する専門知識と技術を修得することを目標とする。

## I-2 学部の教育課程の編成・実施方針 (CP)

### 学部の教育課程の編成・実施方針 (CP)

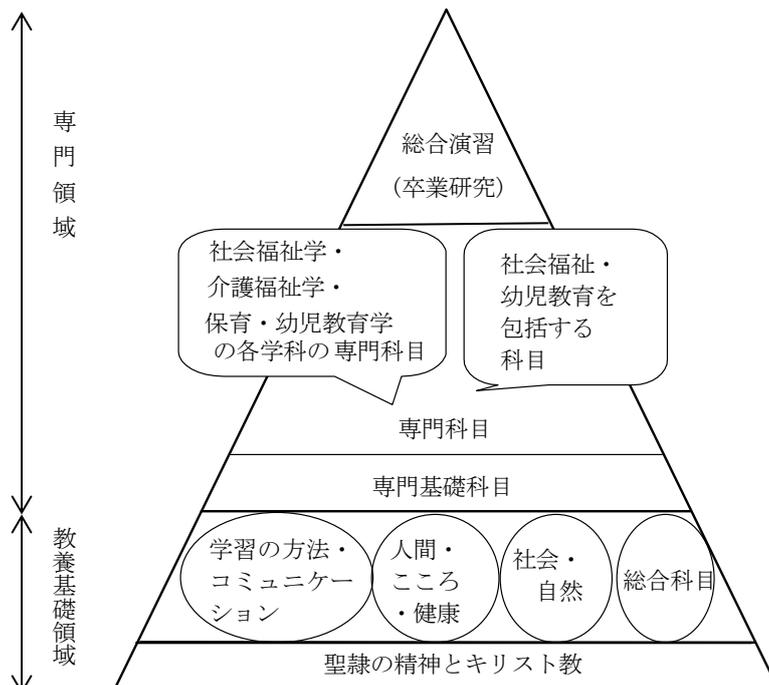
カリキュラム編成方針は、社会福祉士・介護福祉士・保育士を志す者として身につけるべき態度・知識・技術を修得するために、1) 建学の精神に基づいた人間性の涵養をはかるための自校教育と人間理解を深めるための多様な教養基礎科目を配置した教養基礎領域、2) 関連諸学の基礎知識や社会福祉士・介護福祉士・保育士の基礎知識を体系的に修得する専門基礎領域、3) さまざまな対象者の有する課題を科学的、論理的、総合的に理解し支援するために必要な社会福祉・介護福祉・保育の基本的な知識と理論、および技術を修得するための専門領域、の3領域から編成します。具体的には上記の教育目標により、以下のカリキュラムポリシーに基づいて編成します。

1. キリスト教精神に基づく「生命の尊厳と隣人愛」を深く理解し、社会福祉士、介護福祉士、保育士の福祉専門職者としての高い倫理観と価値観・態度を身につけるために、建学の理念と精神の育成に関わる自校教育科目および人間形成に関わるキリスト教関連科目を置く。また大学での学びの基礎を築き、幅広い知識を広げ、物事を総合的に捉え的確に判断できる教養を養うために大学教育導入科目と教養科目を置く。
2. 対象者の多様性を理解し、適切な社会福祉援助の実践ができるようになるため、関連諸学の基礎知識や社会福祉の各専門分野の基礎的な知識・理論や技能を体系的に理解し修得するために専門基礎科目を置く。
3. 対象者を全人的に理解し、適切な対人関係を築くことのできるコミュニケーション力と実践力を養うためにキャリア教育科目および専門基礎科目を置く。
4. 対象者を理解し、基礎的な社会福祉援助法の実践のため、各専門分野の基礎的な評価や援助技術を修得するために専門科目を置く。
5. 設定された課題や自身の疑問に対し、自身の専門分野や関連諸学の学識を統合し、課題を探求する態度と知識、技術を身につけるために専門科目を置く。
6. 社会福祉士、介護福祉士、保育士等の社会福祉専門職者の役割と責任を自覚し、多職種との連携・協働が実践できる態度と知識・技術を修得するために専門科目と専門職連携教育科目を置く。
7. 国際社会の課題に関心を深め、国際的にも活躍できる国際感覚および語学力・表現力を養うために語学や海外研修および国際福祉実習の科目を置く。

## I-3 学部のカリキュラムと各年次における到達目標

### 1. カリキュラムの構造 (1) 基本構造

本学部での学修には、隣人愛に基盤をおいた人間性を涵養しながら、支援するために必要となる知識や技術を修得することに加え、人と環境を捉える視点を幅広くもつことが求められます。本学部ではこのような学修を可能とするために、カリキュラムは以下のような構造となっています。



## (2) 教養基礎領域の 科目

「大学での学びの土台を築いていくこと」を目的とした教養基礎領域は、5つの科目群にわかれ、それぞれの領域ごとに卒業に必要な単位数が決められています。

聖隷クリストファー大学には、長年にわたる看護教育、介護福祉教育の実績があり、またこの大学が土台を共にする聖隷グループの活動は、保健・医療、社会福祉の分野と多岐にわたります。結核を患う人と共に生きることからはじまった聖隷の歴史は、時代の変化と共に必要な施設などを整備しながら、保健・医療・福祉の連携・協働によりつくられてきました。これらの活動の根底にあるのは、常に変わらない目の前にいる人のために「人に仕える」者としてのキリスト教の示す人間観でした。

大学の学修において専門的知識・技術の修得の重要性はいうまでもありません。と同時に、幅広い視野に立ち人間全般に関する深い教養と物事を総合的に捉える力を養うこと、また時代が大きく変化する中で、その時代に合わせて変えなければならないこと、いくら時代が変化しても継承しなくてはいけないものを見抜く力を養うことも重要となります。

本学ではこのようなことを学ぶ科目を多く設けています。21世紀の保健・医療・福祉の分野における担い手となる看護学部、リハビリテーション学部、社会福祉学部の学生が共に学べるよう「共通科目」を設置しました。この機会をとおして、選択する分野や目標が異なる仲間たちと出会い、お互いに競い合っ学修を重ね、その専門性の相違を見出してほしいと願っています。さらに、問題意識をもつことの重要性、学修の楽しさ・厳しさなどを理解し、大学における学びの基礎づくりをして下さい。

### (1) 聖隷の精神とキリスト教

聖書の教えや「聖隷」の事業の歴史を知ることを通して、本学の建学精神の根幹をなす「生命の尊厳と隣人愛」について学修します。

### (2) 学習の方法・コミュニケーション

本科目群は、大学で学習する際に必要とされるスタディ・スキルやスチューデント・スキルを修得する科目（フレッシュマンセミナー、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、情報処理Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）及びコミュニケーションスキルを修得する外国語の科目（英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語等）から構成されています。

スタディ・スキルとは、「読む」「書く」「伝える」「理解する」「議論する」「調べる」といった基礎的な学習能力を指します。スチューデント・スキルは、大学生活を送る上でのルールやマナーといった大学生としての基本的な態度の形成を意味します。いずれのスキルも、大学の学修における基盤となりますので、自分の得意・不得意を意識しながら、学習を進めてください。

### (3) 人間・こころ・健康

援助者・教育者となるためには、対象者理解だけでなく、援助者・教育者自身の理解も重要となります。人間を多面的かつ包括的に理解する上で有用となる、基礎学問領域における「人間に対するものの見方」について学修することを目指します。

### (4) 社会・自然

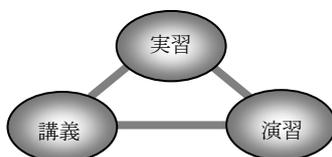
人間は自己の中で完結して生きているのではなく、社会や自然との関係の中で生活を営んでいます。ここでは、幾つかの学問領域が捉える「社会や自然」を学ぶことで、人間の理解を更に深めることを目的としています。

### (5) 総合科目

対人支援専門職の総合大学として本学が提供する特徴的な科目が配置されています。看護・リハビリテーション学部の学生と学び合う「専門職連携の基礎」は、「専門職同志が協働すること」の基礎を学修します。さらに、「大学間交流授業」は、「環境と人間」をテーマとし、西部地域にある大学で学ぶ学生や社会人と共に学ぶ機会が与えられている講義です。

**(3) 講義・演習・実習  
が連動した教育  
課程**

大学における学修では、単に知識を増やすことだけではなく、自分が得た知識を深めることが必要です。特に対人支援専門職を目指す学生にとって、「講義」で学んだ知識や技術を「演習」で実際に使ってみたり、さらに「実習」や「インターンシップ」でそれらを対人支援の場で知識や技術を統合して身につけたりすることが重要になります。



本学部のカリキュラムは、「講義」科目を基盤にして「実習」「演習」科目が配置されています。学生の効果的な学修、またキャリア・プラン等を考察した上で、授業科目の配置セメスターを決定しました。教育課程表にある「開講セメスター」は、それを示しています。

**2. 科目の種類**

**(1) 必修科目と選択  
科目**

すべての授業科目は、「必修科目」と「選択科目」に分かれて、教養基礎領域、専門領域のいずれかに配置されています。

「必修科目」は、「卒業するために必ず履修しなければならない科目」です。

「選択科目」は、「資格の取得の仕方や学生の興味・関心などにより、自らが選択する科目」です。

**(2) 指定科目**

国家資格を取得するためには、各資格課程において指定された科目を修得することが必要となります。それらの科目は「指定科目」と呼ばれます。

各資格で必要とされる指定科目の数や種類は異なりますので、各学科の「資格の取得」を参照してください。

**3. 各年次における  
到達目標**

**1年次**

1. キリスト教精神を基盤とした隣人愛について理解し、他者を尊重し、集団での自己の役割を自覚して行動できる。
2. カリキュラムの特徴を理解し、人間形成のための教養科目の履修を通して、教育システムを活用して、自ら学ぶ姿勢、自分に適した学習方法を確立できる。
3. 初年次の学修を通して、学問の基本的な考え方や現代社会で発生している諸問題を理解できる。
4. 対人援助・社会支援にかかわる基本的枠組（理念・対象・方法・歴史）及び専門職連携について説明できる。
5. 人と環境、またはその相互接触面について理解し、そこにかかわろうとする意欲をもっている。
6. 初年次の学修を通して、大学での学びや社会福祉専門職に必要な基礎的技術を身につけ、使用できる。

**2年次**

1. 現代社会における諸問題について、その発生原因や経過、その解決の現状について説明できる。
2. 対人援助・社会支援の対象に合わせて、そのニーズを把握し、適切な支援の道筋を指摘できる。
3. キリスト教精神に基づいた多様な社会福祉・教育実践の学習を通じ、人権を尊重し、社会正義を標榜する個人として社会に寄与できる。
4. 対人援助・社会支援のための自己覚知の必要性を理解し、学生同士の演習を通じ、それを深めようとする姿勢をもっている。
5. 受容的・共感的態度を形成しつつ、基本的なコミュニケーションや支援の技術を使用できる。
6. 実践の場で必要とされる社会福祉専門職としての技術について理解し、ある程度使用できる。
7. 現代社会を社会福祉の視点で捉え、自らの考えをレポートや口頭発表を用いて効果的に示すことができる。

### 3年次

1. 対人援助・社会支援の問題を特定し、それを適切に理解するための手続きを説明できる。
2. 対人援助・社会支援の対象に合わせて、適用できるさまざまな関連施策について類別できる。
3. さまざまな対象のニーズや背景を論理的に把握し、類別することができる。
4. 対人援助・社会支援のための自己覚知の必要性を理解し、実践現場での経験を通じてそれを深めようとする姿勢をもっている。
5. 受容的・共感的態度をもって実践現場で対人関係を形成することができる。
6. 対象者の発達段階やニーズに合わせた支援をする上で必要とされる社会福祉専門職としての技術を用いることができる。

### 4年次

1. 対人援助・社会支援の対象を多角的に理解し、それぞれのニーズや背景要因を理解する。
2. 論理的に把握された対象者の状態に対して、分析的思考にもとづいた援助者の行動目標を設定できる。
3. 大学で履修した講義、演習、実習を通して理解した人間の多様性を踏まえ、共生の価値観をもち、人や社会と協調できる。
4. 対人援助・社会支援において、他者の役割が理解でき、自らの役割を果たしながら他者や組織と協働することができる。

## Ⅱ-1 社会福祉学科のカリキュラムの特徴と構成

### 1. カリキュラム構成の 3本の柱

現代社会は、伝統的な地縁や血縁が崩壊しつつあり、家族や個人が孤立し、極めて脆弱な生活基盤に立っている状況であるといえましょう。社会福祉学科では、このような「縁」を再構成し、地域にネットワークの輪を構築し、広げていく人材を育成したいと考えています。そのため、社会福祉学科では学生の知識、技術、態度を涵養するため、以下の共通テーマを学科の学びの柱として掲げています。

#### (1) コミュニケーションと相談援助

人によりそうためのコミュニケーション・相談援助・ネットワーキングの知識と技術をしっかりと学びます。

#### (2) 体験学習とインターンシップ

講義を基盤とした演習・実習・インターンシップを重視し、1年次から4年次まで福祉現場の体験ができます。

#### (3) 社会参加支援

人々の社会参加を支援する、専門職同志の「連携」に強いネットワークづくりのプロを目指して学修します。

### 2. 4つのコースとキャリア・プラン

社会福祉学科には4つのコースがあります。これらのコースは卒業後のキャリア・プランと連動し、将来像を見据えた学びの道標となります。

#### マネジメントコース

社会福祉施設やNPO法人でリーダーシップを発揮し、マネジメントを展開するために必要な学びをするコースです。

#### アクティブライフコース

障がいのある人たち、高齢者やこどもの通所施設等で、生活の質（Quality of Life）の向上を目指し、また就労支援や自立支援の方法を学ぶコースです。

#### 保健医療ソーシャルワークコース

一般病院、精神科病院やその他の医療機関で相談援助の専門職を目指す学びのコースです。医療ソーシャルワーカー志望、または、精神保健福祉士資格取得希望の学生は本コースを選択する必要があります。

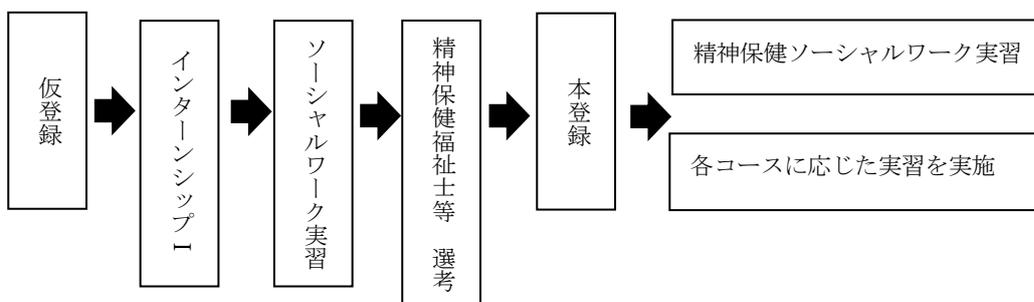
#### スクールソーシャルワーク（こども・若者支援）コース

小中高校等で、児童・生徒やご家族等を対象に相談援助を行うスクールソーシャルワークを含む、「こども・若者支援」について重点的に学ぶコースです。精神保健福祉士資格取得を希望せずにスクールソーシャルワーカーの認定資格の取得を希望する学生は、本コースを選択する必要があります。

### 3. コース選択のプロセスと資格取得にかかわる「選考」

コース制とは、将来を考えた「履修モデル」であり、在学中のコースの変更が可能です。学生は2年次の第3 Semesterでコースを選び、第4 Semesterで仮登録します。3年次になり、第6 Semesterになって本登録します。なお、本登録にあたり、第5 Semester以降に「精神保健福祉士」「スクールソーシャルワーカー」「医療ソーシャルワーカー」の資格等の取得を希望する場合には、「選考」を実施します。

資格取得の詳細は、1～3年までの各ガイダンスで説明しますので、自らのキャリア・プランをよく考え、教員や保護者とも相談し、希望資格への理解と動機付けを高めましょう。



### 4. コース制と資格取得等

4つのコースで取得が可能である主要な資格等は、下表のとおりです。

取得資格等 コース	社会福祉士	精神保健福祉士 注1	スクールソーシャルワーカー	医療ソーシャルワーカー
マネジメントコース	○			
アクティブライフコース	○			
保健医療ソーシャルワークコース 注2	○	○	○注3	
スクールソーシャルワーク (こども・若者支援)コース	○		○	

注1：精神保健福祉士の資格取得を希望する場合、原則として、3年次春Semesterまでの社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目すべてを取得できていることが条件となります。

注2：保健医療ソーシャルワークコースでは、社会福祉士取得を基本とし、他の資格等取得の組み合わせは次のとおりです。

1. 社会福祉士＋医療ソーシャルワーカー
2. 社会福祉士＋精神保健福祉士
3. 社会福祉士＋精神保健福祉士＋医療ソーシャルワーカー
4. 社会福祉士＋精神保健福祉士＋スクールソーシャルワーカー

注3：保健医療ソーシャルワークコースを選択した場合、スクールソーシャルワーカーと医療ソーシャルワーカーを同時に選択することはできません。

\*それぞれのコースで履修することが推奨されている科目については、II-4履修モデルの△・□・○・◎印で確認できます。

## Ⅱ-2 実習科目の構成とその内容

### 1. 実習科目の種類と

#### 概要

#### (1) 実習科目の種類と配置semester

社会福祉学科の実習は「国家資格と関連する科目」と「本学独自科目」に大別されます。各実習科目の配置semesterは下表の通りです。

種別	科目名	semester
国家資格関連実習	ソーシャルワーク実習	第5～6 semester
	精神保健ソーシャルワーク実習	第7 semester
認定資格関連実習	スクールソーシャルワーク実習	第6～7 semester
本学独自関連実習	医療ソーシャルワーク実習	第6～7 semester
	インターンシップ入門	第1～2 semester
	インターンシップⅠ	第4 semester
	インターンシップⅡ	第7 semester
	福祉実習Ⅰ～Ⅳ	第2～8 semester
	国際福祉実習	第4～8 semester

#### (2) 各実習科目の

##### 特徴

#### 1) スクールソーシャルワーク実習

スクールソーシャルワーカーが配置されている教育機関等で実習を行う科目です。

#### 2) 医療ソーシャルワーク実習

医療機関（病院・診療所・老人保健施設）の医療福祉部門において実習を行う科目です。

#### 3) インターンシップ 入門

1年次に開講される必修科目です。社会福祉現場での多様性を学び、自分自身についても振り返りを重ねる機会を得ると同時に、インターンシップⅠやソーシャルワーク実習の事前学習として位置づけられている科目です。

#### 4) インターンシップⅠ

本科目は、第4 semesterに開講される必修科目です。3年次のソーシャルワーク実習に向けて、学生の主体性を形成することを目的としています。

#### 5) インターンシップⅡ

本科目は、第7 semesterで開講される選択科目です。コース選択と連動した実習先で総仕上げを行う実習です。

#### 6) 福祉実習Ⅰ～Ⅳ

本科目は第2～8 semesterの間で自由に選択できる科目です。学生自らの関心や目的に応じて、実習先や実習内容を教員や実習先の職員と調整して決定していきます。

#### 7) 国際福祉実習

インド、ブラジル、韓国などの社会福祉施設で実習を行い、その国の社会福祉事情や文化を体験的に学びます。第4～8 semesterで開講されます。実習期間に応じて科目名がⅠからⅣまで設定してあります

<b>2. 実習・インターシップの 単位認定</b>	<p>実習・インターシップ科目を修得するには、実習先等での実習のほかに、必ず大学において事前指導と事後指導を受けます。その際実習科目、実習指導を同時に履修する必要があります。</p> <p>但し、「資格外実習」の「インターシップ入門」、「国際福祉実習」ならびに「インターシップⅡ」「福祉実習」では、本科目のうちで事前指導、事後指導を実施します。</p> <p>詳細は、履修ガイダンス等で説明します。</p>
<b>3. 実習・インターシップの 費用</b>	<p>別途徴収します。また、実習やインターシップにおける滞在費・宿泊費・食費・交通費等は、全額自己負担となります。詳しくは各実習・インターシップのオリエンテーションで説明します。</p>

**Ⅱ-3 演習科目の構成とその内容**

<b>1. 実践系演習と 教養・研究系演習</b>	<p>演習科目は、「実践系演習」と「教養・研究系演習」に大別されます。</p> <p>「実践系演習」は、具体的な援助スキルを修得できるように、講義で学んだ援助スキルを学生同士で実際に使ってみる形式で進められる授業です。</p> <p>「教養・研究系演習」とは、大学を卒業して社会人として、また実践者として必要となる「読む」「書く」「考える」「探求する」「討議する」などの能力を養い、専門的な学修を進めることを目的としています。小グループ形式で授業を行います。</p>
<b>2. 基礎演習Ⅰ・Ⅱ、 フレッシュマンセミナー</b>	<p>第1・2セメスターに開講され、大学で学ぶための基礎的な諸能力を養い、4年間の学修の基盤を形成することを目的とします。</p>
<b>3. 社会福祉演習</b>	<p>第3セメスターに開講される本科目は、社会福祉の専門領域を学ぶために必要とされる学修能力を養うことなどを目的としています。</p>
<b>4. 総合演習 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ</b>	<p>第6～8セメスターに開講されます。学生は自分の関心に基づいてテーマを設定し、大学での学修の総括として、テーマについて担当教員の指導のもと学修を深め、最終的には成果物にまとめるなどします。</p>

## Ⅱ-4 教育課程・カリキュラムマップ・履修モデル(社会福祉学科)

社会福祉学部社会福祉学科 教育課程

区分	授業科目	共通科目	時間数	単位数	開講年次								卒業に必要な単位数	資格課程						
					1年次		2年次		3年次		4年次			社会福祉士	福祉士	SSW				
					1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ								
教養基礎領域	キリストの精神と	聖隷の理念と歴史	★	30	2	◎	◎													
		キリスト教概論	★	30	2	◎	◎													
		キリスト教人間論	★	15	1					○	○									
		キリスト教の歴史	★	15	1	○	○													
		キリスト教倫理	★	15	1			○	○											
	学習の方法・コミュニケーション	フレッシュマンセミナー		30	1		◎													
		基礎演習Ⅰ		30	1		◎													
		基礎演習Ⅱ		30	1			◎												
		英語Ⅰ	★	30	1			◎												
		英語ⅡA	★	30	1	○	○	○	○											
		英語ⅡB	★	30	1	○	○	○	○											
		スペイン語	★	30	1	○	○	○	○											
		ポルトガル語	★	30	1	○	○	○	○											
		中国語	★	30	1	○	○	○	○											
		外国語	★	30	1	○	○	○	○	○	○	○	○							
	情報処理	海外研修	★	30	1	○	○	○	○	○	○	○								
		情報処理Ⅰ	★	30	1	○		○												
		情報処理Ⅱ	★	30	1	○		○	○											
		情報処理Ⅲ	★	30	1	○	○	○	○											
	人間・こころ・健康	哲学	★	30	2	○		○												
		文学	★	30	2	○	○	○	○											
		国語表現法	★	30	2	◎	◎	◎	◎											
		心理学	★	30	2	○	○	○	○											
		倫理学	★	30	2			○	○											
		女性学	★	30	2	○		○												
レクリエーション概論		★	30	2	○	○	○	○												
音楽		★	30	1	○	○	○	○												
人間と健康			15	1			◎													
スポーツⅠ		★	30	1	○	○	○	○												
スポーツⅡ		★	30	1	○	○	○	○												
社会・自然		法学	★	30	2	○	○	○	○											
	日本国憲法	★	30	2		○	○	○												
	経済学	★	30	2	○	○	○	○												
	教育学	★	30	2	○	○	○	○												
	社会学	★	30	2	○	○	○	○												
	現代コミュニティ論	★	30	2	○	○	○	○												
	文化人類学	★	30	2	○		○													
	生態学	★	30	2			○	○	○											
総合科目	生物学	★	30	2	○		○													
	専門職連携の基礎	★	15	1		◎														
	キャリアデザイン	★	15	1							◎									
	ボランティア論	★	15	1	○															
	ボランティア演習	★	30	1		○			○		○									
大学間交流授業	★	30	2		○			○		○										

「開講年次」欄の◎と○は、それぞれ卒業要件のための必修科目と選択科目です。

「資格課程」欄の○は、それぞれ国家試験受験資格取得のために必要な科目です。

\*社会福祉学科においては「国語表現法」、「人間と健康」は必修科目です。

\*社会福祉学科においては情報処理Ⅰ～Ⅲのうち2科目を必ず履修してください。

\*社会福祉学科1年次生においては「ライフサイクルとソーシャルワークⅠ」「ライフサイクルとソーシャルワークⅡ」のうち、1科目は必ず履修してください。

\*保健医療ソーシャルワークコースの選択者においては「専門職連携演習」を必ず履修してください。

\*マネジメントコースの選択者においては「トップマネジメント論」「マネジメント演習」のうち、1科目は必ず履修してください。

\*アクティブライフコースの選択者においては「ファミリーソーシャルワーク」「ジョブコーチ論」のうち、1科目は必ず履修してください。

区分	授業科目	共通科目	時間数	単位数	開講年次								卒業に必要な単位数	資格課程			
					1年次		2年次		3年次		4年次			社会福祉士	精神保健福祉士	SSW	
					1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ					
専門基礎科目	臨床原論		15	1									◎	7			
	社会福祉学概論Ⅰ		30	2	◎									7	○	○	
	ソーシャルワーク総論Ⅰ		30	2	◎									7	○	○	
	ソーシャルワーク論Ⅰ		30	2		◎								7	○	○	
	医学概論		30	2		○								7	○	○	
専門領域 専門科目	キリスト教社会福祉		30	2				○						7			
	総合演習Ⅰ		30	2						◎				7			
	総合演習Ⅱ		30	2								◎		7			
	総合演習Ⅲ		30	2									◎	7			
	専門職連携演習	★	30	1									○	7			
	ソーシャルワーク演習Ⅰ		30	2		◎								7	○	○	
	社会福祉入門		30	2		◎								7			
	社会福祉演習		30	2			◎							7			
	インターンシップ入門		60	2		◎								7			
	インターンシップⅠ		90	2				◎						7			
	インターンシップⅠ実習指導		30	2				◎						7			
	社会福祉学概論Ⅱ		30	2						○				7	○	○	
	ソーシャルワーク総論Ⅱ		30	2		○								7	○	○	
	社会保障論Ⅰ		30	2					○					7	○	○	
	社会保障論Ⅱ		30	2						○				7	○	○	
	公的扶助論		30	2					○					7	○	○	
	ソーシャルワーク論Ⅱ		30	2			○							7	○	○	
	ソーシャルワーク論Ⅲ		30	2				○						7	○	○	
	ソーシャルワーク論Ⅳ		30	2							○			7	○	○	
	ソーシャルワーク演習Ⅱ		30	2			○							7	○	○	
	ソーシャルワーク演習Ⅲ		30	2				○						7	○	○	
	ソーシャルワーク演習Ⅳ		30	2					○					7	○	○	
	ソーシャルワーク演習Ⅴ		30	2						○				7	○	○	
	ソーシャルワーク演習Ⅵ		15	1								○		7	○	○	
	ソーシャルワーク実習		180	4						○				7	○	○	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		30	1				○						7	○	○	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		60	2						○				7	○	○	
	高齢者福祉論		30	2			○							7	○	○	
	介護福祉論		30	2		○								7	○	○	
	障害者福祉論		30	2			○							7	○	○	
	児童・家庭福祉論		30	2				○						7	○	○	○
	地域福祉論Ⅰ		30	2			○							7	○	○	
	地域福祉論Ⅱ		30	2				○						7	○	○	
	社会福祉経営論		30	2							○			7	○	○	
	医療福祉論		30	2				○						7	○	○	
	社会福祉行政論		15	1					○					7	○	○	
	福祉計画論		15	1					○					7	○	○	
	就労支援論		15	1				○						7	○	○	
	司法福祉論		15	1						○				7	○	○	
	社会調査論		30	2						○				7	○	○	
	精神保健福祉制度論Ⅰ		30	2				○						7		○	
	精神保健福祉制度論Ⅱ		30	2					○					7		○	
	精神保健生活支援システム論		30	2								○		7		○	
	精神保健ソーシャルワーク総論		30	2		○								7		○	
	精神保健ソーシャルワーク各論Ⅰ		30	2					○					7		○	
精神保健ソーシャルワーク各論Ⅱ		30	2						○				7		○		
精神保健ソーシャルワーク演習Ⅰ		30	2							○			7		○		
精神保健ソーシャルワーク演習Ⅱ		30	2								○		7		○		
精神保健ソーシャルワーク実習指導		90	3								○		7		○		
精神保健ソーシャルワーク実習		210	5								○		7		○		
精神障害リハビリテーションⅠ		30	2						○				7		○		
精神障害リハビリテーションⅡ		30	2							○			7		○		
精神医学Ⅰ		30	2				○						7		○		
精神医学Ⅱ		30	2					○					7		○		
精神保健学Ⅰ		30	2			○							7		○	○	
精神保健学Ⅱ		30	2				○						7		○		
社会福祉発達史		30	2				○						7		○		

区分	授業科目	共通科目	時間数	単位数	開講年次								卒業に必要な単位数	資格課程						
					1年次		2年次		3年次		4年次			社会福祉士	精神保健福祉士	SSW				
					1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ								
専門領域	専門科目	福祉文化論	30	2									○							
		ライフサイクルとソーシャルワークⅠ	30	2	○															
		ライフサイクルとソーシャルワークⅡ	30	2		○														
		マネジメント演習	30	2										○						
		臨床心理学	30	2				○												
		発達心理学	30	2			○													○
		児童心理	30	2					○											
		レクリエーション活動の実際	30	2	○															
		福祉レクリエーション論	30	2										○						
		福祉レクリエーション援助論	30	2											○					
		福祉レクリエーション援助技術	30	2											○					
		絵画と表現	30	2		○														
		音楽と身体表現	30	1		○														
		特別支援教育論	30	2			○													
		国際社会福祉論	30	2			○													
		生涯学習論	30	2	○															
		スクール(学校)ソーシャルワーク論	30	2							○									○
		スクールソーシャルワーク演習	15	1							○									○
		スクールソーシャルワーク実習指導	30	2								○								○
		スクールソーシャルワーク実習	90	2									○							○
		ファミリーソーシャルワーク	30	2										○						
		ジョブコーチ論	15	1										○						
		トップマネジメント論	15	1										○						
		医療ソーシャルワーク演習	15	1						○					○					
		医療ソーシャルワーク実習指導	30	2											○					
		医療ソーシャルワーク実習	90	2											○					
		生活サポート演習Ⅰ	30	2	○		(○)							(○)						
		生活サポート演習Ⅱ	30	2		○		(○)			(○)				(○)					
		国際福祉実習Ⅰ	90	2				○	○	○	○	○	○	○	○					
		国際福祉実習Ⅱ	90	2				○	○	○	○	○	○	○	○					
		国際福祉実習Ⅲ	90	2				○	○	○	○	○	○	○	○					
		国際福祉実習Ⅳ	90	2				○	○	○	○	○	○	○	○					
		インターンシップⅡ	90	2											○					
		福祉実習Ⅰ	90	2		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
福祉実習Ⅱ	90	2		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
福祉実習Ⅲ	90	2		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
福祉実習Ⅳ	90	2		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)								
(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。		(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。		(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。		(4)設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。		
1 年 次	共17-D1-1-教養基礎-1 共17-D1-1-教養基礎-2 共17-D1-1-教養基礎-3 共17-D1-1-教養基礎-4 共17-D1-1-教養基礎-5 共17-D1-1-教養基礎-6 共17-D1-1-教養基礎-7 共17-D1-1-教養基礎-8 共17-D1-1-教養基礎-9 共17-D1-1-教養基礎-10 共17-D1-1-教養基礎-11 共17-D1-1-教養基礎-12 共17-D1-1-教養基礎-13 共17-D1-1-教養基礎-14 共17-D1-1-教養基礎-15 共17-D1-1-教養基礎-16 共17-D1-1-教養基礎-17 共17-D1-1-教養基礎-18 共17-D1-1-教養基礎-19 共17-D1-1-教養基礎-20 共17-D1-1-教養基礎-21 共17-D1-1-教養基礎-22 SW17-D1-1-教養基礎-1 SW17-D1-1-教養基礎-2 SW17-D1-1-専門-1 SW17-D1-1-専門-2 SW17-D1-1-専門-3	聖隷の理念と歴史 キリスト教概論 キリスト教人間論 キリスト教の歴史 キリスト教倫理 哲学 文学 心理学 倫理学 社会学 女性学 レクリエーション概論 音楽 スポーツ I スポーツ II 法学 日本国憲法 経済学 教育学 社会学 現代コミュニティ論 専門職連携の基礎 ボランティア論 人間と健康 ボランティア演習 インターンシップ入門 レクリエーション活動の実際 音楽と身体表現	共17-D2-1-教養基礎-1 共17-D2-1-教養基礎-2 共17-D2-1-教養基礎-3 共17-D2-1-教養基礎-4 SW17-D2-1-専門基礎-1 SW17-D2-1-専門基礎-2 SW17-D2-1-専門基礎-3 SW17-D2-1-専門基礎-4 SW17-D2-1-専門-1 SW17-D2-1-専門-2 SW17-D2-1-専門-3 SW17-D2-1-専門-4 SW17-D2-1-専門-5 SW17-D2-1-専門-6 SW17-D2-1-専門-7 SW17-D2-1-専門-8 SW17-D2-1-専門-9	文化人類学 生態学 生物学 大学間交流授業 社会福祉学概論 I ソーシャルワーク総論 I ソーシャルワーク論 I 医学概論 社会福祉入門 ソーシャルワーク総論 II 介護福祉論 精神保健ソーシャルワーク総論 ライフサイクルとソーシャルワーク I ライフサイクルとソーシャルワーク II 絵画と表現 音楽と身体表現 生涯学習論	共17-D3-1-教養基礎-1 共17-D3-1-教養基礎-2 共17-D3-1-教養基礎-3 共17-D3-1-教養基礎-4 共17-D3-1-教養基礎-5 共17-D3-1-教養基礎-6 共17-D3-1-教養基礎-7 共17-D3-1-教養基礎-8 共17-D3-1-教養基礎-9 共17-D3-1-教養基礎-10 共17-D3-1-教養基礎-11 共17-D3-1-教養基礎-12 SW17-D3-1-教養基礎-1 SW17-D3-1-教養基礎-2 SW17-D3-1-教養基礎-3 SW17-D3-1-専門-1 SW17-D3-1-専門-2 SW17-D3-1-専門-3	英語 I 英語 II A 英語 II B スペイン語 ポルトガル語 中国語 外国語 情報処理 I 情報処理 II 情報処理 III 国語表現法 海外研修 フレッシュマンセミナー 基礎演習 I 基礎演習 II ソーシャルワーク演習 I 生活サポート演習 I 生活サポート演習 II		
2 年 次	SW17-D1-2-専門-1	キリスト教社会福祉	SW17-D2-2-専門-1 SW17-D2-2-専門-2 SW17-D2-2-専門-3 SW17-D2-2-専門-4 SW17-D2-2-専門-5 SW17-D2-2-専門-6 SW17-D2-2-専門-7 SW17-D2-2-専門-8 SW17-D2-2-専門-9 SW17-D2-2-専門-10 SW17-D2-2-専門-11 SW17-D2-2-専門-12 SW17-D2-2-専門-13 SW17-D2-2-専門-14 SW17-D2-2-専門-15 SW17-D2-2-専門-16 SW17-D2-2-専門-17 SW17-D2-2-専門-18 SW17-D2-2-専門-19 SW17-D2-2-専門-20	社会福祉演習 公的扶助論 ソーシャルワーク論 II ソーシャルワーク論 III 高齢者福祉論 障害者福祉論 児童・家庭福祉論 地域福祉論 I 地域福祉論 II 医療福祉論 就労支援論 精神保健福祉制度論 I 精神医学 I 精神保健学 I 精神保健学 II 社会福祉発達史 臨床心理学 発達心理学 特別支援教育論 国際社会福祉論	SW17-D3-2-専門-1 SW17-D3-2-専門-2	ソーシャルワーク演習 II ソーシャルワーク実習指導 I	SW17-D4-2-専門-1	ソーシャルワーク演習 III
3 年 次	SW17-D1-3-専門-1 SW17-D1-3-専門-2 SW17-D1-3-専門-3 SW17-D1-3-専門-4 SW17-D1-3-専門-5 SW17-D1-3-専門-6	スクール(学校)ソーシャルワーク論 国際福祉実習 I 国際福祉実習 II 国際福祉実習 III 国際福祉実習 IV インターンシップ II	SW17-D2-3-専門-1 SW17-D2-3-専門-2 SW17-D2-3-専門-3 SW17-D2-3-専門-4 SW17-D2-3-専門-5 SW17-D2-3-専門-6 SW17-D2-3-専門-7 SW17-D2-3-専門-8 SW17-D2-3-専門-9 SW17-D2-3-専門-10	社会福祉学概論 II 社会保障論 I 社会保障論 II ソーシャルワーク論 IV 社会福祉経営論 社会福祉行政論 司法福祉論 精神保健ソーシャルワーク各論 I 精神障害リハビリテーション I 児童心理			SW17-D4-3-教養基礎-1 SW17-D4-3-専門-1 SW17-D4-3-専門-2 SW17-D4-3-専門-3 SW17-D4-3-専門-4	キャリアデザイン 福祉計画論 社会調査論 精神保健福祉制度論 II 精神医学 II
4 年 次			SW17-D2-4-専門-1 SW17-D2-4-専門-2 SW17-D2-4-専門-3 SW17-D2-4-専門-4 SW17-D2-4-専門-5 SW17-D2-4-専門-6	精神保健生活支援システム論 精神保健ソーシャルワーク演習 I 福祉文化論 福祉レクリエーション論 ファミリーソーシャルワーク ジョブコーチ論			SW17-D4-4-専門-1 SW17-D4-4-専門-2	精神障害リハビリテーション II 福祉レクリエーション援助論

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)						
		(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。	(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。	(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。		
1 年 次						
2 年 次	SW17-D5-2-専門-1 SW17-D5-2-専門-2 SW17-D5-2-専門-3 SW17-D5-2-専門-4 SW17-D5-2-専門-5 SW17-D5-2-専門-6	インターンシップ I インターンシップ I 実習指導 福祉実習 I 福祉実習 II 福祉実習 III 福祉実習 IV				
3 年 次	SW17-D5-3-専門-1 SW17-D5-3-専門-2 SW17-D5-3-専門-3 SW17-D5-3-専門-4 SW17-D5-3-専門-5 SW17-D5-3-専門-6 SW17-D5-3-専門-7 SW17-D5-3-専門-8 SW17-D5-3-専門-9	総合演習 I ソーシャルワーク演習IV ソーシャルワーク実習 ソーシャルワーク実習指導II 精神保健ソーシャルワーク実習指導 スクールソーシャルワーク実習指導 スクールソーシャルワーク実習 医療ソーシャルワーク実習指導 医療ソーシャルワーク実習	SW17-D6-3-専門-1 SW17-D6-3-専門-2 SW17-D6-3-専門-3	精神保健ソーシャルワーク各論 II スクールソーシャルワーク演習 医療ソーシャルワーク演習	SW17-D7-3-専門-1	ソーシャルワーク演習 V
4 年 次	SW17-D5-4-専門-1 SW17-D5-4-専門-2 SW17-D5-4-専門-3 SW17-D5-4-専門-4 SW17-D5-4-専門-5	総合演習 II 総合演習 III 精神保健ソーシャルワーク演習 II 精神保健ソーシャルワーク実習 福祉レクリエーション援助技術	SW17-D6-4-専門-1 SW17-D6-4-専門-2 SW17-D6-4-専門-3 SW17-D6-4-専門-4	専門職連携演習 ソーシャルワーク演習VI マネジメント演習 トップマネジメント論	SW17-D7-4-専門基礎-1	臨床原論

履修モデル (社会福祉学科)

- 社会福祉士取得のための科目
- 精神保健福祉士取得のための科目
- ◎スクールソーシャルワーカー取得のための科目

- △マネジメントコース科目
- 保健医療ソーシャルワークコース科目
- アクティブ・ライフコース科目

必修科目 (ゴシック)

年次	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次					
	第 1 セメスター	第 2 セメスター	第 3 セメスター	第 4 セメスター	第 5 セメスター	第 6 セメスター	第 7 セメスター	第 8 セメスター				
講義科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会福祉学概論 I</li> <li>●ソーシャルワーク総論 I</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●障害者福祉論</li> <li>●高齢者福祉論</li> <li>◎児童・家庭福祉論</li> <li>●地域福祉論 I</li> <li>●ソーシャルワーク論 II</li> <li>◎精神保健学 I</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域福祉論 II</li> <li>●公的扶助論</li> <li>●ソーシャルワーク論 III</li> <li>○就労支援論</li> <li>●医療福祉論</li> <li>■精神保健福祉制度論 I</li> <li>■精神医学 I</li> <li>■精神保健学 II</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会保障論 I</li> <li>●社会福祉行政論</li> <li>●福祉計画論</li> <li>■精神保健福祉制度論 II</li> <li>■精神医学 II</li> <li>□精神保健ソーシャルワーク各論 I</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会福祉学概論 II</li> <li>●社会保障論 II</li> <li>●ソーシャルワーク論 IV</li> <li>●社会福祉経営論</li> <li>●司法福祉論</li> <li>●社会調査論</li> <li>■□精神保健ソーシャルワーク各論 II</li> <li>■精神障害リハビリテーション I</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>■精神保健生活システム論</li> <li>■精神障害リハビリテーション II</li> </ul>	
	本学独自科目	<p style="text-align: center;"><b>社会福祉入門</b></p> <p>ライフサイクルとソーシャルワーク I ライフサイクルとソーシャルワーク II レクリエーション活動の実際 生涯学習論</p>		<p>◎発達心理学</p> <p>○特別支援教育論</p> <p>キリスト教社会福祉</p> <p>社会福祉発達史</p> <p>臨床心理学</p>		<p>児童心理</p> <p>○◎スクール(学校)ソーシャルワーク論</p>		<p style="text-align: center;"><b>臨床原論</b></p> <p>福祉文化論 福祉レクリエーション論 △マネジメント演習 ○□ファミリー・ソーシャルワーク ○ジョブコーチ論 △トップマネジメント論</p>		<p>福祉レクリエーション援助論 福祉レクリエーション援助技術</p>		
実習・インターンシップ科目	<p style="text-align: center;"><b>インターンシップ入門</b></p>		<p style="text-align: center;"><b>インターンシップ I</b> インターンシップ I 実習指導</p> <p>●ソーシャルワーク実習指導 I</p>		<p>●ソーシャルワーク実習</p> <p>●ソーシャルワーク実習指導 II</p>		<p style="text-align: center;"><b>精神保健ソーシャルワーク実習指導</b></p> <p>■精神保健ソーシャルワーク実習</p> <p>インターンシップ II</p>		<p>◎スクールソーシャルワーク実習 ◎スクールソーシャルワーク実習指導 □医療ソーシャルワーク実習 □医療ソーシャルワーク実習指導</p>			
			国際福祉実習 I・II・III・IV		福祉実習 I・II・III・IV							
演習科目	<p>専門職連携の基礎</p> <p>生活サポート演習 I</p>		<p>●●ソーシャルワーク演習 I</p> <p>生活サポート演習 II</p>		<p>●●ソーシャルワーク演習 II</p> <p>●●ソーシャルワーク演習 III</p>		<p>●●ソーシャルワーク演習 IV</p> <p>●●ソーシャルワーク演習 V</p> <p>□医療ソーシャルワーク演習</p> <p>◎スクールソーシャルワーク演習</p>		<p>●●ソーシャルワーク演習 VI</p> <p>■□精神保健ソーシャルワーク演習 I</p> <p>■□精神保健ソーシャルワーク演習 II</p> <p>□専門職連携演習</p>			
	<p>基礎演習 I</p> <p>フレッシュマンセミナー</p>		<p>基礎演習 II</p>		<p>社会福祉演習</p>		<p>総合演習 I</p>		<p>総合演習 II・III</p>			
教養・研究系												
	<p>- 聖隷の精神とキリスト教 -</p> <p style="text-align: center;"><b>聖隷の理念と歴史</b></p> <p>キリスト教概論 キリスト教の歴史 キリスト教人論 キリスト教倫理</p>		<p>- 学習の方法・コミュニケーション -</p> <p>英語 I・IIA・IIB スペイン語 ポルトガル語 中国語 外国語 海外研修 △情報処理 I・II・III</p>		<p>- 人間・こころ・健康 -</p> <p>哲学 文学 国語表現法 女性学 スポーツ I・II ●●心理学 ●●倫理学 ●●音楽</p>		<p>- 社会・自然 -</p> <p>●●法学 ●●日本国憲法 ●●経済学 ◎教育学 ●●社会学 現代コミュニティ論 文化人類学 生態学 生物学 総合科目</p> <p style="text-align: center;"><b>キャリアデザイン</b></p> <p>ボランティア論 ボランティア演習 大学間交流授業</p>					

## Ⅱ-5 編入学生の学修

編入学生は3年次への編入学となります。編入学生には、編入学以前の学校での修得単位を最大限尊重する意味と資格取得という入学の目的を考慮し、「教養基礎領域 30 単位、専門領域 86 単位、教養基礎領域・専門領域及び他学科履修科目から 9 単位」という規程は適用されません。しかし、「Ⅰ-2 学部のカリキュラムの構造と科目の種類」と「Ⅱ-1 社会福祉学科のカリキュラムの特徴と構成」に記載されている内容をよく理解し、可能な限り各資格の指定科目以外で配置されている本学の必修科目を履修することを勧めます。

### 1. 卒業に必要な単位

63 単位 既修得として認定された資格指定科目の単位は含みません。  
※入学時に 62 単位が既修得単位として認定されるので、本学において 63 単位以上を修得してください。

### 2. 在学年数

2 年（4 年以内）

### 3. 資格取得

指定科目の履修により以下の資格の取得が可能です。

- ・社会福祉士国家試験受験資格
- ・精神保健福祉士国家試験受験資格
- ・社会福祉主事任用資格
- ・福祉レクリエーション・ワーカー
- ・児童指導員任用資格

資格取得に関して、以下のことに留意してください。

1. 社会福祉士と精神保健福祉士両方の国家試験受験資格を取得する場合は、2 年間で履修することが困難です。
2. 原則として精神保健福祉士の国家試験受験資格のみの履修はできません。ただし、既に社会福祉士を取得（見込みを含む）、又は福祉専門職としての相談援助業務の経験がある場合はこの限りではありません。
3. 精神保健福祉士の国家試験受験資格を得ようとする場合、入学後その「選考」を行います。

### 4. 履修計画

以下の科目を全員履修する必要があります。  
「総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」

### 5. 教育課程表

社会福祉学部社会福祉学科の教育課程表を参照してください。

## II-6 卒業に必要な単位数

### 1. 卒業の資格 (学則 39・40 条)

卒業の資格は、所定の修業年限以上在学し、学則に定める卒業に必要な単位を修得した者に与えられます。

### 2. 卒業に必要な 単位数の内訳 (学則 29 条 別表 1-2, 1-3, ・39 条 2 項)

社会福祉学科

教養基礎領域 計 30 単位 (必修 10 単位)	聖隷の精神とキリスト教	13 単位(必修 8 単位)
	学習の方法・コミュニケーション	
	人間・こころ・健康	17 単位(必修 2 単位)
	社会・自然	
	総合科目	
専門領域 86 単位 (必修 25 単位)	専門基礎科目	7 単位(必修 7 単位)
	専門科目	79 単位 (必修 18 単位)
上記に加え教養基礎領域・専門領域及び 他学科履修科目から 9 単位		9 単位
卒業に必要な単位数		125 単位 (必修 35 単位)

### 3. 他学科履修制度

本制度は、社会福祉の専門知識をより広く学修できる機会を提供することを目的として創設されました。これによって、他学科の教育課程にある専門領域の授業科目を一部履修することが可能となり、修得した単位は 9 単位を上限に卒業単位として認定されます。

本学科の他学科科目履修が可能な授業科目は以下の通りです。

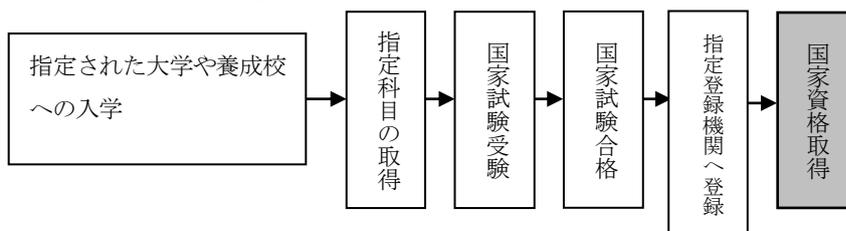
開講セメスター	科 目 名	
	介護福祉学科	こども教育福祉学科
第 1	—	障害児保育、子どもと生活
第 2	障害の理解	—
第 3	認知症の理解 I	社会的養護
第 4	認知症の理解 II	社会的養護内容、子育て環境論、子どもケアワーク論
第 5	—	家庭支援論、発達障害児の理解、幼児教育相談
第 6	—	教育心理学、保育相談支援、発達障害児の支援
第 8	—	親支援方法論

## Ⅱ-7 資格の取得

### 1. 社会福祉士・精神保健福祉士の資格取得

#### 1. 国家試験受験資格

「社会福祉士」「精神保健福祉士」は「国家資格」と呼ばれ、それらを取得するためには、「国家試験」を受験し、合格する必要があります。そして、国家試験の受験資格を得るためには、大学や養成校などで一定の科目を取得しなければなりません。これを「国家試験受験資格」の取得といいます。本学科では「社会福祉士」「精神保健福祉士」がこれに該当します。



なお、資格認定審査及び資格の登録には、社会福祉振興・試験センターが定める関係費用が必要になります。

#### 2. 各資格の職務

「社会福祉士」「精神保健福祉士」という国家資格を持つ人の職務は、つぎのように各法律（「社会福祉士及び介護福祉士法」「精神保健福祉士法」）で定められています。

社会福祉士	社会福祉士は、専門的知識及び技術を持って、身体上若しくは精神上の障害があること又は環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供する者又は医師その他の保健医療サービスを提供する者その他の関係者との連絡及び調整その他の援助を行うことを職務とする。
精神保健福祉士	精神保健福祉士は、精神障害者の保健及び福祉に関する専門的知識及び技術をもって、精神科病院その他の医療施設において精神障害の医療を受け、又は精神障害者の社会復帰の促進を図ることを目的とする施設を利用している者の社会復帰に関する相談に応じ、助言、指導、日常生活への適応のために必要な訓練その他の援助を行うことを職務とする。

## 2. 社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目

「社会福祉士」「精神保健福祉士」の国家試験受験資格を得るためには、必ず履修しなければならない科目が決められています。これを「指定科目」と呼びます。厚生労働省令で定める各資格の「指定科目」は以下のとおりです。

本学科において「指定科目」を修めるためには、次の表に示す本学開講科目を全て履修し、単位を修得してください。

(ただし、受験資格として \* 印の科目から 1 科目 )

### 1. 社会福祉士の指定科目一覧

指定科目	本学開講科目	単位
人体の構造と機能及び疾病	医学概論	2
心理学理論と心理的支援	心理学	2
社会理論と社会システム	社会学	2
現代社会と福祉	社会福祉学概論Ⅰ	2
	社会福祉学概論Ⅱ	2
社会調査の基礎	社会調査論	2
相談援助の基盤と専門職	ソーシャルワーク総論Ⅰ	2
	ソーシャルワーク総論Ⅱ	2
相談援助の理論と方法	ソーシャルワーク論Ⅰ	2
	ソーシャルワーク論Ⅱ	2
	ソーシャルワーク論Ⅲ	2
	ソーシャルワーク論Ⅳ	2
地域福祉の理論と方法	地域福祉論Ⅰ	2
	地域福祉論Ⅱ	2
福祉行財政と福祉計画	社会福祉行政論	1
	福祉計画論	1
福祉サービスの組織と経営	社会福祉経営論	2
社会保障	社会保障論Ⅰ	2
	社会保障論Ⅱ	2

指定科目	本学開講科目	単位
高齢者に対する支援と介護保険制度	高齢者福祉論	2
	介護福祉論	2
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者福祉論	2
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	児童・家庭福祉論	2
低所得者に対する支援と生活保護制度	公的扶助論	2
保健医療サービス	医療福祉論	2
就労支援サービス	就労支援論	1
権利擁護と成年後見制度	法学	2
	司法福祉論	1
更生保護制度	司法福祉論	1
相談援助演習	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	2
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	2
	ソーシャルワーク演習Ⅵ	1
相談援助実習指導	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2
相談援助実習	ソーシャルワーク実習	4

### 2. 精神保健福祉士の指定科目一覧

指定科目	本学開講科目	単位
人体の構造と機能及び疾病	医学概論	2
心理学理論と心理的支援	心理学	2
社会理論と社会システム	社会学	2
現代社会と福祉	社会福祉学概論Ⅰ	2
	社会福祉学概論Ⅱ	2
地域福祉の理論と方法	地域福祉論Ⅰ	2
	地域福祉論Ⅱ	2
社会保障	社会保障論Ⅰ	2
	社会保障論Ⅱ	2
低所得者に対する支援と生活保護制度	公的扶助論	2
福祉行財政と福祉計画	社会福祉行政論	1
	福祉計画論	1
保健医療サービス	医療福祉論	2
権利擁護と成年後見制度	法学	2
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者福祉論	2
精神疾患とその治療	精神医学Ⅰ	2
	精神医学Ⅱ	2

指定科目	本学開講科目	単位
精神保健の課題と支援	精神保健学Ⅰ	2
	精神保健学Ⅱ	2
精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）	ソーシャルワーク総論Ⅰ	2
	ソーシャルワーク総論Ⅱ	2
精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	精神保健ソーシャルワーク総論	2
精神保健福祉の理論と相談援助の展開	精神保健ソーシャルワーク各論Ⅰ	2
	精神保健ソーシャルワーク各論Ⅱ	2
	精神障害リハビリテーションⅠ	2
	精神障害リハビリテーションⅡ	2
精神保健福祉に関する制度とサービス	精神保健福祉制度論Ⅰ	2
	精神保健福祉制度論Ⅱ	2
精神障害者の生活支援システム	精神保健生活支援システム論	2
精神保健福祉援助演習（基礎）	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2
精神保健福祉援助演習（専門）	精神保健ソーシャルワーク演習Ⅰ	2
	精神保健ソーシャルワーク演習Ⅱ	2
精神保健福祉援助実習指導	精神保健ソーシャルワーク実習指導	3
精神保健福祉援助実習	精神保健ソーシャルワーク実習	5

### 3. スクールソーシャルワーカー・社会福祉主事、児童指導員、福祉レクリエーション・ワーカーの資格

#### 1. スクールソーシャルワーカー

##### 1 スクールソーシャルワーカーとは

スクールソーシャルワーカーとは、原則 18 歳未満の児童生徒を対象とした学校等において、学校及び日常での生活を営む上での課題の解決を要する児童生徒とその家庭への支援を行う職種です。日本社会福祉士養成校協会によって認定されたスクールソーシャルワーク教育課程を修了した上で、社会福祉士、または精神保健福祉士の国家試験に合格した者に与えられる資格です。

##### 2. 指定科目

本学科でこの資格を取得するには、社会福祉士指定科目を履修した上で、下表の「指定科目」を履修し、第 5 セメスターに学内で行う選考に合格しなければ、第 6 セメスター以降のスクールソーシャルワーク実習、スクールソーシャルワーク実習指導、スクールソーシャルワーク演習を履修することはできません。なお、資格の登録は無料です。

指定科目	本学開講科目	単位
スクールソーシャルワーク論	スクール（学校）ソーシャルワーク論	2
スクールソーシャルワーク実習	スクールソーシャルワーク実習	2
スクールソーシャルワーク実習指導	スクールソーシャルワーク実習指導	2
スクールソーシャルワーク演習	スクールソーシャルワーク演習	1
教育の基礎理論に関する科目のうち、「教育に関する社会的、制度的または経営的事項」を含む科目	教育学	2
教育の基礎理論に関する科目のうち「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程に関する事項」を含む科目	発達心理学	2
精神保健の課題と支援	精神保健学 I	2
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	児童・家庭福祉論	2

#### 2. 社会福祉主事

##### 1. 社会福祉主事とは

社会福祉主事は、社会福祉行政の第一線の現業機関である福祉事務所で仕事をする際に必要となる資格です。この資格は「任用資格」とよばれ、公務員になり福祉事務所の職員として任用されるときに必要となります。

##### 2. 指定科目

本学科では、社会福祉士、精神保健福祉士の指定科目を履修すれば付与されます。

#### 3. 児童指導員

##### 1. 児童指導員とは

児童指導員は、児童福祉施設で仕事をする際に必要となる資格です。この資格は「任用資格」とよばれ、公務員になり児童福祉施設の職員として任用されるときに必要となります。

##### 2. 指定科目

「指定科目」はありません。本学科を卒業すれば自動的に付与されます。

#### 4. 福祉レクリエーション・ワーカー

##### 1. 福祉レクリエーション・ワーカーとは

「福祉レクリエーション・ワーカー」は、対象者一人ひとりの「楽しさの追求」を通して、「生きがいや張り合いのある生活」や「生きる喜び・生きる力の獲得」を支援できる人材を養成することを目的とした資格です。

介護職員、生活相談員、ケアマネージャー、施設長、理学療法士、作業療法士、ホームヘルパー、保育士、幼稚園教諭、ボランティア（介護予防・子育て支援事業）など、たくさんの方が資格を取得しています。この資格は、財団法人日本レクリエーション協会の「認定資格」となっています。

<習得できる知識と技術>

- ・ 対象者一人ひとりの欲求やニーズ、状況などを把握する力
- ・ 対象者の状況に合わせたレクリエーション支援プランを立てる力
- ・ レクリエーション支援プランを実行・評価する力
- ・ 対象者の意欲を引き出すコミュニケーション能力
- ・ 対象者との1対1の関わりを、対象者同士のふれ合い、支え合いへと広げる力
- ・ レクリエーション支援プランの達成に向けて他職種と連携を図る力 など

##### 2. 指定科目

本学科でこの資格を取得するには、「指定科目」を履修し、第8セメスターに学内で行う資格認定審査(筆記試験・実技試験)に合格する必要があります。

なお、資格認定審査及び資格の登録には、財団法人日本レクリエーション協会が定める関係費用が必要になります。

	指定科目	履修時間及び 単位数	本学開講科目	単 位	備 考
レクリエーション支援のための基礎的な理解	レクリエーション理論	2 単位以上	レクリエーション概論	2	
	レクリエーション実技	2 単位以上	A レクリエーション活動の実際 B { スポーツⅠ スポーツⅡ 音楽 絵画と表現 音楽と身体表現	2 1 1 1 2 1	A 1科目と B群の中から 1科目以上
レクリエーション支援のための福祉領域の基礎知識	支援対象者の生活の理解	3 科目 3 単位 以上	A { 高齢者福祉論 障害者福祉論 児童・家庭福祉論 B 医学概論 C { 心理学 児童心理	2 2 2 2 2 2	各群から 1科目以上
	社会と福祉サービスの理解	2 科目 2 単位 以上	A 社会福祉学概論Ⅰ B ソーシャルワーク総論Ⅰ	2 2	
福祉レクリエーション支援の専門知識・支援技術	福祉レクリエーション支援の理解	2 科目以上 5 単位以上	福祉レクリエーション論	2	
	福祉レクリエーション支援の計画		福祉レクリエーション援助論	2	
	福祉レクリエーション支援の介入技術		福祉レクリエーション援助技術	2	
	福祉レクリエーション支援の総合演習				
福祉レクリエーション支援実習	1 科目以上 2 単位以上	ソーシャルワーク実習	4		

## Ⅲ-1 介護福祉学科のカリキュラムの特徴と構成

### 1. カリキュラム構成の特徴

今日の日本は、世界に類をみない速度で高齢社会に突入しました。又、少子化により社会的人材資源の確保が困難な時代を迎えました。さらに、障がい者や高齢者の生活を支援してきた伝統的な地縁や血縁が崩壊しつつあり、家族や個人が孤立し、社会全体で解決せねばならない課題が山積しています。介護福祉学科では、このような状況を改善すべく、介護の専門職としての独自性を持ち社会的使命を果たす「介護福祉の世界でリーダーとなる専門職の養成」を行います。将来に向けて自らのキャリアデザインが描けると同時に、地域社会で役立つ喜びを住民と共有できる福祉専門職の育成のため、以下のような特徴をもつ教育カリキュラムのもと、学生の教育を行っています。

- (1) 介護福祉や社会福祉に関する学習を基盤に、福祉専門職（介護福祉士、社会福祉士）に必要なとされる専門教育が履修でき、地域での福祉専門職のリーダーとしての資質が培われます。
- (2) 講義及び専門技術を基盤とした演習・実習を重視し、1年次から4年次まで福祉施設での実習やインターンシップにより、多様な福祉現場の体験ができ、幅広い知識に裏付けられた、主体的な活動や実践力を涵養します。
- (3) 国際福祉実習や語学研修等による学びが可能であり、世界的視野にたった介護福祉実践について学修することができ、世界に通用する福祉専門家の育成を目指します。

### 2. 取得資格とキャリア・プラン

介護福祉学科では2つの国家資格の受験資格が取得できます。取得しようとする資格は卒業後のキャリア・プランと連動し、将来を見据えた学びの道標となります。なお各国家資格の受験資格取得に必要な科目についてはⅢ-4履修モデルの●、▲印、キャリアプランのために必要な科目は☆、★印で確認できます。

#### ①介護福祉実践に優れ教育・研究に関心が高いリーダー

要支援介護、要介護者を対象に在宅、高齢者福祉施設、障害者福祉施設等で主にADL（日常生活動作）やIADL（手段的日常生活活動）場面における生活支援を行う介護福祉専門職者を育成し、さらに地域包括ケアを担う専門職者、地域生活継続支援に強い専門職者、医療機関で生活支援の指導ができる専門職者、実践の場において研修指導を担える専門職者、実践を研究に高める力のある専門職者の育成を目指します。

#### ②介護福祉経営に関心が高く実践力のあるリーダー

地域の社会資源の活用や開発を行いながら、介護福祉と社会福祉の専門職として要援護・要介護者の地域生活を支えます。介護事業者や福祉施設等の福祉経営を担える知識を身につけることで介護福祉施設の管理運営を担う専門職者、介護福祉事業所の経営を担う専門職者、民間福祉サービス事業の起業実践をする専門職者、地域福祉の推進を担う専門職者、在宅復帰を推進する介護事業所の管理運営を担う専門職者を目指します。

※この領域は社会福祉士国家試験受験資格の取得を推奨します。

1年次4月 新入生オリエンテーション 取得できる資格の説明

1年次2月 秋 Semester 終了時 資格取得に関するガイダンス

2年次4月 春 Semester ガイダンス 取得資格希望届の提出

\*以降の取得資格希望の変更には、取得資格変更届(保護者印が必要)を提出します。

### 3. 希望取得資格決定までの流れ

介護福祉士、社会福祉士の2資格の取得を希望する場合、原則として、介護実習Ⅰが履修済みであることを条件とします。介護実習Ⅰを再履修する場合は、4年間での2資格の取得は困難になります。

ガイダンス等を通して、自らのキャリア・プランをよく考え、教員や保護者とも相談し、希望資格への理解と動機付けを高めが必要です。

## Ⅲ－２ 実習科目の構成とその内容

### 1. 実習科目の種類と概要

#### (1) 資格実習

実習科目の種類

国家試験受験資格	科目名
①介護福祉士	介護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（第1～4セメスター）
②社会福祉士	ソーシャルワーク実習（第5～6セメスター）

資格実習については別途「実習の手引き」などを配付し、詳細についてオリエンテーションを行います。

#### (2) 資格外実習・インターンシップ

##### 1) 国際福祉実習

インド、ブラジル、韓国などの社会福祉施設で実習を行い、その国の社会福祉事情や文化を体験的に学びます。第4～8セメスターで開講されます。実習期間に応じて科目名がⅠからⅣまで設定してあります。

##### 2) 福祉実習

学生が自らの関心や目的に応じて福祉施設における実習先、実習内容などを先方と調整し行われる実習を福祉実習と位置付けています。第4～8セメスターで開講されます。

##### 3) インターンシップ

学生が就職等自らの関心や目的に応じてインターンシップ先、インターンシップ内容などを先方と調整し行われる実習をインターンシップと位置付けています。第5～8セメスターで開講されます。

### 2. 実習・インターンシップの費用

別途徴収します。また、実習やインターンシップにおける滞在費・宿泊費・食費・交通費等は、全額自己負担となります。詳しくは各実習・インターンシップに関するオリエンテーション等で説明します。

### 3. 実習・インターンシップの単位認定

実習の単位を修得するには、施設・病院等での実習のほか、必ず大学において事前指導と事後指導を受ける必要があります。

「資格実習」では、各資格の指定科目になっている「介護総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ」を履修する必要があります。詳しくは履修ガイダンス等で説明します。

「国際福祉実習」ならびに「インターンシップ」では、原則として担当教員から事前指導、事後指導を受けます。

### Ⅲ－３ 演習科目の構成とその内容

#### 1. 実践系演習と 教養・研究系演習

「実践系演習」は、介護福祉現場に関する具体的な援助スキルを修得できるような実践力を培います。実際の援助場面を想定し、講義で学んだ援助スキルを学生相互で実際に使ってみる形式で進められる授業です。

「教養・研究系演習」とは、大学を卒業して社会人として、また対人援助の実践者として必要となる「読む」「書く」「考える」「探究する」「討議する」「発表する」「統合する」などの能力を養い、専門的な学修を進めることを目的としています。小グループ形式で授業を行います。

#### 2. 基礎演習Ⅰ・Ⅱ フレッシュマンセミナー

第1・2 Semesterに開講され、大学で学ぶための基礎的な諸能力を養い、4年間の学修の基盤を形成することを目的とします。

#### 3. 介護総合演習Ⅰ・Ⅱ

第1・2 Semesterに開講され、介護福祉を中心とした社会福祉の専門領域を学ぶために必要とされる知識を修得し、具体的な方法論や、学修能力を養うことを目的とします。

#### 4. 介護総合演習Ⅲ・Ⅳ

第3・4 Semesterに開講され、介護及び社会福祉の専門的な学びを進めていきます。研究の視点や、実践力を修得することを目的とします。

#### 5. 総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

第6～8 Semesterに開講されます。学生は自分の関心に基づいてテーマを設定し、大学での学修の総括として、テーマについて担当教員の指導のもと学修を深め、最終的には成果物にまとめるなどします。ここでは、専門性をより高めることを目的とします。

Ⅲ-4 教育課程・カリキュラムマップ・履修モデル(介護福祉学科)

社会福祉学部介護福祉学科 教育課程

区分	授業科目	共通科目	時間数	単位数	開講年次								卒業に必要な単位数	資格課程			
					1年次		2年次		3年次		4年次			介護福祉士	社会福祉士		
					1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ					
教養	キリスト教の精神と	聖隷の理念と歴史	★	30	2	◎	◎									○	
		キリスト教概論	★	30	2	◎	◎										
		キリスト教人間論	★	15	1					○	○						
		キリスト教の歴史	★	15	1	○	○										
		キリスト教倫理	★	15	1			○	○								
		フレッシュマンセミナー		30	1		◎										
		基礎演習Ⅰ		30	1	◎											
		基礎演習Ⅱ		30	1		◎										
		英語Ⅰ	★	30	1		◎										
		英語ⅡA	★	30	1	○	○	○	○								
		英語ⅡB	★	30	1	○	○	○	○								
		スペイン語	★	30	1	○	○	○	○								
		ポルトガル語	★	30	1	○	○	○	○								
		中国語	★	30	1	○	○	○	○								
		外国語	★	30	1	○	○	○	○	○	○	○	○				
		海外研修	★	30	1	○	○	○	○	○	○	○	○				
		情報処理Ⅰ	★	30	1	○		○									
		情報処理Ⅱ	★	30	1		○		○								
		情報処理Ⅲ	★	30	1	○	○	○	○								
	基礎領域	人間・こころ・健康	哲学	★	30	2	○		○								
		文学	★	30	2	○	○	○	○								
		国語表現法	★	30	2	○	○	○	○								○
		心理学	★	30	2	○	○	○	○								
		倫理学	★	30	2		○		○								
		女性学	★	30	2	○		○									
		レクリエーション概論	★	30	2	○	○	○	○								
		音楽	★	30	1	○	○	○	○								
		人間と健康		15	1		○										
		スポーツⅠ	★	30	1	○	○	○	○								
	スポーツⅡ	★	30	1	○	○	○	○									
社会・自然		法学	★	30	2	○	○	○	○							○	○
		日本国憲法	★	30	2		○		○								
		経済学	★	30	2	○	○	○	○								
		教育学	★	30	2	○	○	○	○								
		社会学	★	30	2	○	○	○	○							○	○
		現代コミュニティ論	★	30	2	○	○	○	○								
		文化人類学	★	30	2	○		○									
		生態学	★	30	2		○	○	○								
総合科目		専門職連携の基礎	★	15	1	◎											
		キャリアデザイン	★	15	1						◎						
		ボランティア論	★	15	1	○											
		ボランティア演習	★	30	1		○				○				○		
		大学間交流授業	★	30	2		○				○				○		

「開講年次」欄の◎と○は、それぞれ卒業要件のための必修科目と選択科目です。

「資格課程」欄の○は、それぞれ国家試験受験資格取得のために必要な科目です。

区分	授業科目	共通科目	時間数	単位数	開講年次								卒業に必要な単位数	資格課程			
					1年次		2年次		3年次		4年次			介護福祉士	社会福祉士		
					1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ					
専門領域	人間の尊厳と自立		30	2		◎									○		
	発達と老化Ⅰ		30	2		◎									○		
	発達と老化Ⅱ		30	2				◎							○		
	認知症の理解Ⅰ		30	2				◎							○		
	認知症の理解Ⅱ		30	2				◎							○		
	障害の理解		30	2		◎									○		
	医学概論		30	2		◎									○	○	
	こととからだⅠ		30	2	◎										○		
	こととからだⅡ		30	2		◎									○		
	こととからだⅢ		30	2			◎								○		
	キリスト教社会福祉		30	2					○								
	総合演習Ⅰ		30	2							◎						
	総合演習Ⅱ		30	2								◎					
	総合演習Ⅲ		30	2									◎				
	専門職連携演習	★	30	1										○			
	介護の基本Ⅰ		30	2	◎											○	
	介護の基本Ⅱ		30	2			◎									○	
	介護の基本Ⅲ		30	2				○								○	
	介護の基本Ⅳ		30	2					○							○	
	介護の基本Ⅴ		30	2						○						○	
	介護の基本Ⅵ		30	2							○					○	
	介護生活支援論Ⅰ		30	2	○											○	
	介護生活支援論Ⅱ		30	2					○							○	
	生活支援技術基礎Ⅰ		60	2	◎											○	
	生活支援技術基礎Ⅱ		60	2		◎										○	
	生活支援技術Ⅰ		60	2			○									○	
	生活支援技術Ⅱ		60	2				○								○	
	介護過程基礎論Ⅰ		30	2		○										○	
	介護過程基礎論Ⅱ		30	2			○									○	
	介護過程展開法Ⅰ		30	2				○								○	
	介護過程展開法Ⅱ		30	2					○							○	
	介護過程展開法Ⅲ		30	2						○						○	
	障害者福祉論		30	2			○									○	○
	コミュニケーション技術Ⅰ		30	2	○											○	
	コミュニケーション技術Ⅱ		30	2			○									○	
	介護福祉論		30	2		○										○	○
	社会福祉学概論Ⅰ		30	2	◎											○	○
	社会福祉学概論Ⅱ		30	2							○					○	○
	医療的ケアⅠ		30	2				○								○	
	医療的ケアⅡ		30	2					○							○	
	医療的ケアⅢ		30	1							○					○	
	介護総合演習Ⅰ		30	1	○											○	
	介護総合演習Ⅱ		30	1		○										○	
	介護総合演習Ⅲ		30	1			○									○	
	介護総合演習Ⅳ		30	1				○								○	
	介護実習Ⅰ		90	2		○										○	
	介護実習Ⅱ		180	4			○									○	
介護実習Ⅲ		180	4				○								○		
地域福祉論Ⅰ		30	2			○										○	
地域福祉論Ⅱ		30	2				○									○	
公的扶助論		30	2				○									○	
社会保障論Ⅰ		30	2					○								○	
社会保障論Ⅱ		30	2							○						○	
高齢者福祉論		30	2			○										○	
ソーシャルワーク論Ⅰ		30	2		○											○	
ソーシャルワーク論Ⅱ		30	2			○										○	
ソーシャルワーク論Ⅲ		30	2				○									○	
ソーシャルワーク論Ⅳ		30	2							○						○	
トップマネジメント論		30	2								○						
社会福祉経営論		30	2								○					○	
社会福祉行政論		15	1							○						○	

区分	授 業 科 目	共通科目	時間数	単位数	開講年次								卒業に必要な単位数	資格課程			
					1年次		2年次		3年次		4年次			介護福祉士	社会福祉士		
					1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ					
専 門 領 域	福祉計画論		15	1						○							○
	就労支援論		15	1				○									○
	司法福祉論		15	1								○					○
	社会調査論		30	2								○					○
	ビジネス・プレゼンテーション論		30	2								○					○
	児童・家庭福祉論		30	2			○										○
	医療福祉論		30	2								○					○
	ソーシャルワーク総論Ⅰ		30	2	◎												○
	ソーシャルワーク総論Ⅱ		30	2		○											○
	ソーシャルワーク演習Ⅰ		30	2		○										○	○
	ソーシャルワーク演習Ⅱ		30	2			○										○
	ソーシャルワーク演習Ⅲ		30	2				○									○
	ソーシャルワーク演習Ⅳ		30	2					○								○
	ソーシャルワーク演習Ⅴ		30	2								○					○
	ソーシャルワーク演習Ⅵ		15	1									○				○
	ソーシャルワーク実習		180	4							○						○
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		30	1				○									○
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		60	2							○						○
	福祉文化論		30	2									○				
	児童心理		30	2									○				
	レクリエーション活動の実際		30	2					○								
	福祉レクリエーション論		30	2									○				
	福祉レクリエーション援助論		30	2										○			
	福祉レクリエーション援助技術		30	2										○			
	絵画と表現		30	2										○			
	音楽と身体表現		30	1								○					
	生涯学習論		30	2									○				
	介護福祉管理論		30	2								○					
	起業論		30	2									○				
	コーチング		30	2									○				
	介護福祉指導法		30	2									○				
	包括的ケア論		30	2									○				
	福祉の倫理		30	2						○							
	組織と人材		30	2						○							
	介護福祉情報論		30	2						○							
	地域福祉演習		30	1							○						
	自立支援介護論		30	2						○							
	医療介護過程論		30	2							○						
	チーム介護論		30	2									○				
	リーダーシップ論		30	2									○				
	介護福祉教育論		30	2									○				
	介護福祉研究法		30	2								○					
	介護福祉実践演習Ⅰ		30	1									○				
	介護福祉実践演習Ⅱ		30	1										○			
	国際福祉実習Ⅰ		90	2					○	○	○	○	○	○			○
国際福祉実習Ⅱ		90	2					○	○	○	○	○	○			○	
国際福祉実習Ⅲ		90	2					○	○	○	○	○	○			○	
国際福祉実習Ⅳ		90	2					○	○	○	○	○	○			○	
インターンシップⅠ		90	2						○	○	○	○	○			○	
インターンシップⅡ		90	2						○	○	○	○	○			○	
福祉実習Ⅰ		90	2					○	○	○	○	○	○			○	
福祉実習Ⅱ		90	2					○	○	○	○	○	○			○	
福祉実習Ⅲ		90	2					○	○	○	○	○	○			○	
福祉実習Ⅳ		90	2					○	○	○	○	○	○			○	

6  
6  
単  
位  
以  
上

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)								
(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。		(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。		(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。		(4)設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。		
1 年 次	共17-D1-1-教養基礎-1 共17-D1-1-教養基礎-2 共17-D1-1-教養基礎-3 共17-D1-1-教養基礎-4 共17-D1-1-教養基礎-5 共17-D1-1-教養基礎-6 共17-D1-1-教養基礎-7 共17-D1-1-教養基礎-8 共17-D1-1-教養基礎-9 共17-D1-1-教養基礎-10 共17-D1-1-教養基礎-11 共17-D1-1-教養基礎-12 共17-D1-1-教養基礎-13 共17-D1-1-教養基礎-14 共17-D1-1-教養基礎-15 共17-D1-1-教養基礎-16 共17-D1-1-教養基礎-17 共17-D1-1-教養基礎-18 共17-D1-1-教養基礎-19 共17-D1-1-教養基礎-20 共17-D1-1-教養基礎-21 共17-D1-1-教養基礎-22 SS17-D1-1-教養基礎-1 SS17-D1-1-教養基礎-2 SS17-D1-1-専門-1	聖隷の理念と歴史 キリスト教概論 キリスト教人間論 キリスト教の歴史 キリスト教倫理 哲学 文学 心理学 倫理学 女性学 レクリエーション概論 音楽 スポーツⅠ スポーツⅡ 法学 日本国憲法 経済学 教育学 社会学 現代コミュニティ論 専門職連携の基礎 ボランティア論 人間と健康 ボランティア演習 人間の尊厳と自立	共17-D2-1-教養基礎-1 共17-D2-1-教養基礎-2 共17-D2-1-教養基礎-3 共17-D2-1-教養基礎-4 SS17-D2-1-専門基礎-1 SS17-D2-1-専門基礎-2 SS17-D2-1-専門基礎-3 SS17-D2-1-専門基礎-4 SS17-D2-1-専門基礎-5 SS17-D2-1-専門基礎-6 SS17-D2-1-専門-1 SS17-D2-1-専門-2 SS17-D2-1-専門-3 SS17-D2-1-専門-4 SS17-D2-1-専門-5 SS17-D2-1-専門-6 SS17-D2-1-専門-7 SS17-D2-1-専門-8 SS17-D2-1-専門-9	文化人類学 生態学 生物学 大学間交流授業 発達と老化Ⅰ 障害の理解 医学概論 こころとからだⅠ こころとからだⅡ 介護の基本Ⅰ 介護生活支援論Ⅰ 介護過程基礎論Ⅰ 介護福祉論 社会学概論Ⅰ ソーシャルワーク論Ⅰ ソーシャルワーク総論Ⅰ ソーシャルワーク総論Ⅱ 生涯学習論	共17-D3-1-教養基礎-1 共17-D3-1-教養基礎-2 共17-D3-1-教養基礎-3 共17-D3-1-教養基礎-4 共17-D3-1-教養基礎-5 共17-D3-1-教養基礎-6 共17-D3-1-教養基礎-7 共17-D3-1-教養基礎-8 共17-D3-1-教養基礎-9 共17-D3-1-教養基礎-10 共17-D3-1-教養基礎-11 共17-D3-1-教養基礎-12 SS17-D3-1-教養基礎-1 SS17-D3-1-教養基礎-2 SS17-D3-1-教養基礎-3 SS17-D3-1-専門-1 SS17-D3-1-専門-2 SS17-D3-1-専門-3 SS17-D3-1-専門-4 SS17-D3-1-専門-5 SS17-D3-1-専門-6	英語Ⅰ 英語ⅡA 英語ⅡB スペイン語 ポルトガル語 中国語 外国語 情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱ 情報処理Ⅲ 国語表現法 海外研修 フレッシュマンセミナー 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 生活支援技術基礎Ⅰ 生活支援技術基礎Ⅱ コミュニケーション技術Ⅰ 介護総合演習Ⅰ 介護総合演習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅰ		
2 年 次	SS17-D1-2-専門-1 SS17-D1-2-専門-2 SS17-D1-2-専門-3 SS17-D1-2-専門-4	キリスト教社会福祉 生活支援技術Ⅰ 生活支援技術Ⅱ 介護過程展開法Ⅰ	SS17-D2-2-専門基礎-1 SS17-D2-2-専門基礎-2 SS17-D2-2-専門基礎-3 SS17-D2-2-専門基礎-4 SS17-D2-2-専門-1 SS17-D2-2-専門-2 SS17-D2-2-専門-3 SS17-D2-2-専門-4 SS17-D2-2-専門-5 SS17-D2-2-専門-6 SS17-D2-2-専門-7 SS17-D2-2-専門-8 SS17-D2-2-専門-9 SS17-D2-2-専門-10 SS17-D2-2-専門-11 SS17-D2-2-専門-12 SS17-D2-2-専門-13	発達と老化Ⅱ 認知症の理解Ⅰ 認知症の理解Ⅱ こころとからだⅢ 介護の基本Ⅱ 介護の基本Ⅲ 介護過程基礎論Ⅱ 障害者福祉論 医療的ケアⅠ 地域福祉論Ⅰ 地域福祉論Ⅱ 公的扶助論 高齢者福祉論 ソーシャルワーク論Ⅱ ソーシャルワーク論Ⅲ 就労支援論 児童・家庭福祉論	SS17-D3-2-専門-1 SS17-D3-2-専門-2 SS17-D3-2-専門-3	コミュニケーション技術Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	SS17-D4-2-専門-1	ソーシャルワーク演習Ⅲ
3 年 次	SS17-D1-3-専門-1 SS17-D1-3-専門-2 SS17-D1-3-専門-3 SS17-D1-3-専門-4 SS17-D1-3-専門-5 SS17-D1-3-専門-6 SS17-D1-3-専門-7 SS17-D1-3-専門-8 SS17-D1-3-専門-9 SS17-D1-3-専門-10 SS17-D1-3-専門-11	介護過程展開法Ⅱ 介護過程展開法Ⅲ レクリエーション活動の実際 音楽と身体表現 福祉の倫理 国際福祉実習Ⅰ 国際福祉実習Ⅱ 国際福祉実習Ⅲ 国際福祉実習Ⅳ インターンシップⅠ インターンシップⅡ	SS17-D2-3-専門-1 SS17-D2-3-専門-2 SS17-D2-3-専門-3 SS17-D2-3-専門-4 SS17-D2-3-専門-5 SS17-D2-3-専門-6 SS17-D2-3-専門-7 SS17-D2-3-専門-8 SS17-D2-3-専門-9 SS17-D2-3-専門-10 SS17-D2-3-専門-11 SS17-D2-3-専門-12 SS17-D2-3-専門-13	介護の基本Ⅳ 介護の基本Ⅴ 介護生活支援論Ⅱ 社会学概論Ⅱ 社会保障論Ⅰ 社会保障論Ⅱ ソーシャルワーク論Ⅳ 社会学経営論 社会学行政論 司法福祉論 医療福祉論 児童心理 音楽と身体表現	SS17-D3-3-専門-1 SS17-D3-3-専門-2	ビジネス・プレゼンテーション論 介護福祉情報論	SS17-D4-3-教養基礎-1 SS17-D4-3-専門-1 SS17-D4-3-専門-2 SS17-D4-3-専門-3 SS17-D4-3-専門-4 SS17-D4-3-専門-5	キャリアデザイン 医療的ケアⅡ 医療的ケアⅢ 福祉計画論 社会調査論 医療介護過程論
4 年 次			SS17-D2-4-専門-1 SS17-D2-4-専門-2 SS17-D2-4-専門-3 SS17-D2-4-専門-4	介護の基本Ⅵ 福祉文化論 福祉レクリエーション論 絵画と表現			SS17-D4-4-専門-1	福祉レクリエーション援助論

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)					
	(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。	(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。	(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。		
1 年 次	SS17-D5-1-専門-1	介護実習 I			
2 年 次	SS17-D5-2-専門-1 SS17-D5-2-専門-2 SS17-D5-2-専門-3 SS17-D5-2-専門-4 SS17-D5-2-専門-5 SS17-D5-2-専門-6 SS17-D5-2-専門-7 SS17-D5-2-専門-8	介護総合演習III 介護総合演習IV 介護実習 II 介護実習III 福祉実習 I 福祉実習 II 福祉実習III 福祉実習IV			
3 年 次	SS17-D5-3-専門-1 SS17-D5-3-専門-2 SS17-D5-3-専門-3 SS17-D5-3-専門-4	総合演習 I ソーシャルワーク演習IV ソーシャルワーク実習 ソーシャルワーク実習指導 II	SS17-D6-3-専門-1 SS17-D6-3-専門-2 SS17-D6-3-専門-3	介護福祉管理論 組織と人材 自立支援介護論	SS17-D7-3-専門-1 SS17-D7-3-専門-2 SS17-D7-3-専門-3
4 年 次	SS17-D5-4-専門-1 SS17-D5-4-専門-2 SS17-D5-4-専門-3 SS17-D5-4-専門-4 SS17-D5-4-専門-5	総合演習 II 総合演習III 福祉レクリエーション援助技術 介護福祉実践演習 I 介護福祉実践演習 II	SS17-D6-4-専門-1 SS17-D6-4-専門-2 SS17-D6-4-専門-3 SS17-D6-4-専門-4 SS17-D6-4-専門-5 SS17-D6-4-専門-6 SS17-D6-4-専門-7 SS17-D6-4-専門-8	専門職連携演習 トツママネジメント論 ソーシャルワーク演習VI 起業論 コーチング 包括的ケア論 チーム介護論 リーダーシップ論	SS17-D7-4-専門-1 SS17-D7-4-専門-2
					ソーシャルワーク演習 V 介護福祉研究法 地域福祉演習
					介護福祉教育論 介護福祉指導法

履修モデル (介護福祉学科)

●介護福祉士取得のための科目  
▲社会福祉士取得のための科目

必修科目 (ゴシック)

年次	1年次		2年次		3年次		4年次		
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
介護福祉士指定科目	領域「介護」 ●介護の基本 I ●介護生活支援論 I ●生活支援技術基礎 I ●コミュニケーション技術 I ●介護総合演習 I ●介護実習 I ①	●介護過程基礎論 I ●生活支援技術基礎 II ●介護総合演習 II ●介護実習 I ②	●介護の基本 II ●介護過程基礎論 II ●生活支援技術 I ●コミュニケーション技術 II ●介護総合演習 III ●介護実習 II	●介護の基本 III ●介護過程展開法 I ●生活支援技術 II ●介護総合演習 IV ●介護実習 III	●介護の基本 IV ●介護生活支援論 II ●介護過程展開法 II	●介護の基本 V ●介護過程展開法 III	●介護の基本 VI		
	領域「こころ」 ●こころからだ I	●こころからだ II ●▲医学概論 ●障害の理解 ●発達と老化 I	●こころからだ III ●認知症の理解 I ●障害者福祉論	●認知症の理解 II ●発達と老化 II					
	医療的ケア ●▲社会福祉学概論 I	●▲介護福祉論 ●▲ソーシャルワーク演習 I ●人間の尊厳と自立 ●聖隷の理念と歴史 ●▲法学 ●▲社会学			●医療的ケア I	●医療的ケア II	●医療的ケア III ●▲社会福祉学概論 II		
	領域「人間と社会」			キリスト教社会福祉	福祉の倫理 組織と人材 介護福祉情報論 自立支援介護論	ビジネス・プレゼンテーション論 介護福祉管理論 医療介護過程論 介護福祉研究法 地域福祉演習	介護福祉実践演習 I 介護福祉実践演習 II トップマネジメント論 児童心理・起業論 コーチング・包括的ケア論 介護福祉指導法・チーム介護論 リーダーシップ論・介護福祉教育論		
本学独自科目					福祉の倫理 組織と人材 介護福祉情報論 自立支援介護論	ビジネス・プレゼンテーション論 介護福祉管理論 医療介護過程論 介護福祉研究法 地域福祉演習	介護福祉実践演習 I 介護福祉実践演習 II トップマネジメント論 児童心理・起業論 コーチング・包括的ケア論 介護福祉指導法・チーム介護論 リーダーシップ論・介護福祉教育論		
社会福祉士指定科目	▲ソーシャルワーク総論 I ▲心理学	▲ソーシャルワーク論 I ▲ソーシャルワーク総論 II	▲ソーシャルワーク論 II ▲ソーシャルワーク演習 II ▲高齢者福祉論 ▲障害者福祉論 ▲児童・家庭福祉論 ▲地域福祉論 I	▲ソーシャルワーク論 III ▲ソーシャルワーク演習 III ▲公的扶助論 ▲地域福祉論 II ▲就労支援論	▲ソーシャルワーク演習 IV ▲社会保障論 I ▲社会福祉行政論 ▲福祉計画論	▲ソーシャルワーク論 IV ▲ソーシャルワーク演習 V ▲社会保障論 II ▲医療福祉論 ▲社会調査論 ▲社会福祉経営論 ▲司法福祉論	▲ソーシャルワーク演習 VI		
関連科目					レクリエーション活動の実践	音楽と身体表現	福祉文化論・生涯学習論 福祉レクリエーション論 トップマネジメント論	福祉レクリエーション援助論 福祉レクリエーション援助技術 絵画と表現	
実習科目			インターンシップ I・II 福祉実習 I・II・III・IV		インターンシップ I・II 国際福祉実習 I・II・III・IV		福祉実習 I・II・III・IV		
演習科目	基礎演習 I フレッシュマンセミナー 専門職連携の基礎	基礎演習 II			総合演習 I		総合演習 II	総合演習 III 専門職連携演習	
教養基礎領域	- 聖隷の精神とキリスト教 - キリスト教概論 キリスト教の歴史		- 学習の方法・コミュニケーション - 英語 I・IIA・IIB 中国語 外国語 海外研修 情報処理 I・II・III		- 人間・こころ・健康 - 哲学 文学 国語表現法 倫理学 女性学 レクリエーション概論 音楽 スポーツ I・II 人間と健康		- 社会・自然 - 日本国憲法 経済学 教育学 現代コミュニケーション論 文化人類学 生態学 生物学 - 総合科目 - キャリアデザイン ボランティア論 ボランティア演習 大学間交流授業		

### Ⅲ－５ 卒業に必要な単位数

**1. 卒業の資格**  
(学則 39・40 条)

卒業の資格は、所定の修業年限以上在学し、学則に定める卒業に必要な単位を修得した者に与えられます。

**2. 卒業に必要な単位数の内訳**  
(学則 29 条  
別表 1-2, 1-4・39 条 2 項)

介護福祉学科

教養基礎領域 計 30 単位 (必修 10 単位)	聖隷の精神とキリスト教	13 単位(必修 8 単位)
	学習の方法・コミュニケーション	
	人間・こころ・健康	17 単位(必修 2 単位)
	社会・自然	
総合科目		
専門領域 計 86 単位 (必修 38 単位)	専門基礎科目	20 単位(必修 20 単位)
	専門科目	66 単位(必修 18 単位)
上記に加え教養基礎領域・専門領域及び他学科履修科目から 9 単位		9 単位
<b>卒業に必要な単位数</b>		<b>125 単位(必修 48 単位)</b>

**3. 他学科履修制度**

本制度は、社会福祉の専門知識をより広く学修できる機会を提供することを目的として創設されました。これによって、他学科の教育課程にある専門領域の授業科目を一部履修することが可能となり、修得した単位は 9 単位を上限に卒業単位として認定されます。

本学科の他学科科目履修が可能な授業科目は以下の通りです。

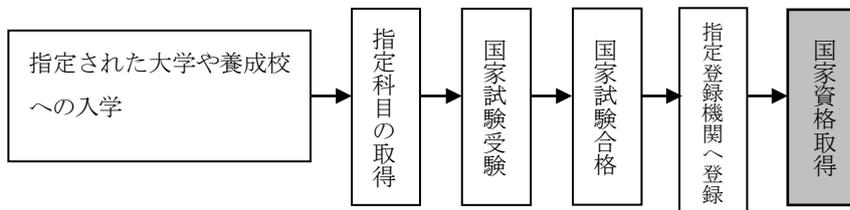
こども教育福祉学科の授業科目	
社会的養護	家庭支援論
発達心理学	子どもケアワーク論

## Ⅲ－6 資格の取得

### 1. 介護福祉士・社会福祉士の資格取得

#### 1. 国家試験受験資格

「介護福祉士」「社会福祉士」は「国家資格」と呼ばれ、それらを取得するためには、「国家試験」を受験し、合格する必要があります。そして、国家試験の受験資格を得るためには、大学や養成校などで一定の科目を取得しなければなりません。これを「国家試験受験資格」の取得といいます。本学科では「介護福祉士」「社会福祉士」がこれに該当します。



#### 2. 各資格の職務

「介護福祉士」「社会福祉士」という国家資格を持つ人の職務は、つぎのように「社会福祉士及び介護福祉士法」で定められています。

介護福祉士	介護福祉士は、専門的知識及び技術をもって、身体上又は精神上の障害があることにより日常生活を営むのに支障がある者につき心身の状況に応じた介護を行い、並びにその者及びその介護者に対して介護に関する指導を行うことを職務とする。
社会福祉士	社会福祉士は、専門的知識及び技術を持って、身体上若しくは精神上の障害があること又は環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供する者又は医師その他の保健医療サービスを提供する者その他の関係者との連絡及び調整その他の援助を行うことを職務とする。

## 2. 介護福祉士・社会福祉士の指定科目

「介護福祉士」「社会福祉士」の国家試験受験資格を得るためには、必ず履修しなければならない科目が決められています。これを「指定科目」と呼びます。厚生労働省令で定める各資格の「指定科目」は以下のとおりです。

本学科において「指定科目」を修めるためには、次の表に示す本学開講科目を全て履修し、単位を修得してください。  
(ただし、社会福祉士については受験資格として \* 印の科目から1科目)

### 1. 介護福祉士の指定科目一覧

指定科目	本学開講科目	単位
人間の尊厳と自立	人間の尊厳と自立	2
人間関係とコミュニケーション	ソーシャルワーク演習 I	2
社会の理解	社会福祉学概論 I	2
	社会福祉学概論 II	2
人間と社会に関する選択科目	聖隷の理念と歴史	2
	介護福祉論	2
	法学	2
	社会学	2
介護の基本	介護の基本 I	2
	介護の基本 II	2
	介護の基本 III	2
	介護の基本 IV	2
	介護の基本 V	2
	介護の基本 VI	2
コミュニケーション技術	コミュニケーション技術 I	2
	コミュニケーション技術 II	2
生活支援技術	生活支援技術 I	2
	生活支援技術 II	2
	生活支援技術基礎 I	2
	生活支援技術基礎 II	2
	介護生活支援論 I	2
	介護生活支援論 II	2

指定科目	本学開講科目	単位
介護過程	介護過程基礎論 I	2
	介護過程基礎論 II	2
	介護過程展開法 I	2
	介護過程展開法 II	2
介護総合演習	介護過程展開法 III	2
	介護総合演習 I	1
	介護総合演習 II	1
介護実習	介護総合演習 III	1
	介護総合演習 IV	1
	介護実習 I	2
発達と老化の理解	介護実習 II	4
	介護実習 III	4
	発達と老化 I	2
認知症の理解	発達と老化 II	2
	認知症の理解 I	2
障害の理解	認知症の理解 II	2
	障害者福祉論	2
こころとからだのしくみ	障害の理解	2
	こころとからだ I	2
	こころとからだ II	2
	こころとからだ III	2
医療的ケア	医学概論	2
	医療的ケア I	2
	医療的ケア II	2
	医療的ケア III	1

## 2. 社会福祉士の指定科目一覧

指定科目	本学開講科目	単位
人体の構造と機能及び疾病	医学概論	2
心理学理論と心理的支援	心理学	2
社会理論と社会システム	社会学	2
現代社会と福祉	社会福祉学概論Ⅰ	2
	社会福祉学概論Ⅱ	2
社会調査の基礎	社会調査論	2
相談援助の基盤と専門職	ソーシャルワーク総論Ⅰ	2
	ソーシャルワーク総論Ⅱ	2
相談援助の理論と方法	ソーシャルワーク論Ⅰ	2
	ソーシャルワーク論Ⅱ	2
	ソーシャルワーク論Ⅲ	2
	ソーシャルワーク論Ⅳ	2
地域福祉の理論と方法	地域福祉論Ⅰ	2
	地域福祉論Ⅱ	2
福祉行財政と福祉計画	社会福祉行政論	1
	福祉計画論	1
福祉サービスの組織と経営	社会福祉経営論	2
社会保障	社会保障論Ⅰ	2
	社会保障論Ⅱ	2

指定科目	本学開講科目	単位
高齢者に対する支援と介護保険制度	高齢者福祉論	2
	介護福祉論	2
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者福祉論	2
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	児童・家庭福祉論	2
低所得者に対する支援と生活保護制度	公的扶助論	2
保健医療サービス	医療福祉論	2
就労支援サービス	就労支援論	1
権利擁護と成年後見制度	法学	2
更生保護制度	司法福祉論	1
相談援助演習	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	2
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	2
	ソーシャルワーク演習Ⅵ	1
相談援助実習指導	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2
相談援助実習	ソーシャルワーク実習	4

## 3. 社会福祉主事、児童指導員、福祉レクリエーション・ワーカーの資格取得

### 1. 社会福祉主事

#### 1. 社会福祉主事とは

社会福祉主事は、社会福祉行政の第一線の現業機関である福祉事務所です。この資格は「任用資格」とよばれ、公務員になり福祉事務所の職員として任用されるときに必要となります。

#### 2. 指定科目

本学科では、介護福祉士、社会福祉士の指定科目を履修すれば付与されます。

### 2. 児童指導員

#### 1. 児童指導員とは

児童指導員は、児童福祉施設で仕事をする際に必要となる資格です。この資格は「任用資格」とよばれ、公務員になり児童福祉施設の職員として任用されるときに必要となります。

#### 2. 指定科目

「指定科目」はありません。本学科を卒業すれば自動的に付与されます。

### 3. 福祉レクリエーション・ワーカー

#### 1. 福祉レクリエーション・ワーカーとは

「福祉レクリエーション・ワーカー」は、対象者一人ひとりの「楽しさの追求」を通して、「生きがいや張り合いのある生活」や「生きる喜び・生きる力の獲得」を支援できる人材を養成することを目的とした資格です。

介護職員、生活相談員、ケアマネージャー、施設長、理学療法士、作業療法士、ホームヘルパー、保育士、幼稚園教諭、ボランティア（介護予防・子育て支援事業）など、たくさんの方が資格を取得しています。この資格は、財団法人日本レクリエーション協会の「認定資格」となっています。

<習得できる知識と技術>

- ・ 対象者一人ひとりの欲求やニーズ、状況などを把握する力
- ・ 対象者の状況に合わせたレクリエーション支援プランを立てる力
- ・ レクリエーション支援プランを実行・評価する力
- ・ 対象者の意欲を引き出すコミュニケーション能力
- ・ 対象者との1対1の関わりを、対象者同士のふれ合い、支え合いへと広げる力
- ・ レクリエーション支援プランの達成に向けて他職種と連携を図る力 など

#### 2. 指定科目

本学科でこの資格を取得するには、「指定科目」を履修し、第8セメスターに学内で行う資格認定審査(筆記試験・実技試験)に合格する必要があります。

なお、資格認定審査及び資格の登録には、財団法人日本レクリエーション協会が定める関係費用が必要になります。

	指定科目	履修時間及び 単位数	本学開講科目	単 位	備 考
レクリエーション支援のための基礎的な理解	レクリエーション理論	2 単位以上	レクリエーション概論	2	
	レクリエーション実技	2 単位以上	A レクリエーション活動の実際 B { スポーツ I スポーツ II 音楽 絵画と表現 音楽と身体表現	2 1 1 1 2 1	A 1 科目と B群の中から 1 科目以上
レクリエーション支援のための福祉領域の基礎知識	支援対象者の生活の理解	3 科目 3 単位 以上	A { 高齢者福祉論 障害者福祉論 児童・家庭福祉論 B 医学概論 C { 心理学 こころとからだ I	2 2 2 2 2 2	各群から 1 科目以上
	社会と福祉サービスの理解	2 科目 2 単位 以上	A 社会福祉学概論 I B ソーシャルワーク総論 I	2 2	
福祉レクリエーション支援の専門知識・支援技術	福祉レクリエーション支援の理解	2 科目以上 5 単位以上	福祉レクリエーション論	2	
	福祉レクリエーション支援の計画		福祉レクリエーション援助論	2	
	福祉レクリエーション支援の介入技術		福祉レクリエーション援助技術	2	
	福祉レクリエーション支援の総合演習				
福祉レクリエーション支援実習	1 科目以上 2 単位以上	介護実習Ⅲ ソーシャルワーク実習	4 4	1 科目以上	

## IV-1 こども教育福祉学科のカリキュラムの特徴と構成

### 1. カリキュラム構成の特徴

家族関係、近隣関係の変化により、子育て不安などが大きな社会問題となっている現代、子どもに関わる専門職者には、子どもに対するより高度なケアのほか、家族に対する支援や、子育てしやすい地域環境づくり等が求められてきています。そのため、こども教育福祉学科では、社会福祉に関する理念・価値・方法を基盤に、子どもへの保育と教育、家族支援、地域環境づくりに対応できる専門職者の養成を目指し、以下の共通テーマを学科の学びの柱として掲げています。

#### (1) 保育に関する技術と相談援助

子どもの保育（特別支援を含む）のための知識と技術、家族によりそうための相談援助の知識と技術、地域におけるネットワークの知識と技術をしっかりと学びます。

#### (2) 実践的な学習

講義を基盤とした演習・実習・インターンシップ・ボランティア等の現場体験を重視し、実践的な指導法を学びます。

#### (3) 社会参加

人々の社会参加を支援するとともに、自らも社会の一員として貢献できる専門職者を目指して学修します。

### 2. 取得資格とキャリア・プラン

こども教育福祉学科では3つの資格が取得できます。これらの資格は卒業後のキャリア・プランと連動し、将来像を見据えた学びの道標となります。将来を考えた資格組み合わせの主なものを以下に示します。

#### 保育士・幼稚園教諭1種免許状

保育所、幼稚園、認定こども園等で、主に就学前の子どもの保育・幼児教育を行う専門職者を目指します。また、子育て支援や地域の関係機関との連携に必要な専門知識を身につけ、家族や地域を支えるための学びを深めます。

#### 保育士・社会福祉士

障がいのある子どもや社会的養護を必要とする子どもの施設等で、養育・療育・保育を行う専門職者を目指します。人によりそうためのコミュニケーション・相談援助・ネットワークの知識と技術・就労支援や自立支援の方法をしっかりと学びます。また、子育て支援や地域の関係機関との連携に必要な専門知識を身につけ、家族や地域を支えるための学びを深めます。

### 3. 希望取得資格決定までの流れ

1年次4月 新入生オリエンテーション 取得できる資格の説明

1年次2月 秋 Semester 終了時 資格取得に関するガイダンス

2年次4月 春 Semester ガイダンス 取得資格希望届の提出

\*以降の取得資格希望の変更には、取得資格変更届(保護者印が必要)を提出します。

保育士、社会福祉士、幼稚園教諭の3資格の取得を希望する場合、原則として、前年度までの必修科目、資格指定科目をすべて取得できていることを条件とします。必修科目、資格指定科目を2科目以上取得できていない場合は、4年間で3資格すべてを取得することは困難になります。

ガイダンス等を通して、自らのキャリア・プランをよく考え、教員や保護者とも相談し、希望資格への理解と動機付けを高めましょう。

## IV-2 実習科目の構成とその内容

### 1. 実習科目の種類と概要

#### (1) 資格実習 実習科目の種類

資格	科目名
①保育士登録資格	保育実習 I A、I B、II、III (第4～6セメスター)
②幼稚園教諭1種免許状	幼稚園実習 (第7セメスター)
③社会福祉士国家試験 受験資格	ソーシャルワーク実習 (第5～6セメスター)

資格実習については別途、「実習の手引き」などを配付し、詳細についてオリエンテーションを行います。

#### (2) 資格外実習

##### 1) 国際福祉実習

インド、ブラジル、韓国などの社会福祉施設で実習を行い、その国の社会福祉事情や文化を体験的に学びます。第4～8セメスターで開講されます。実習期間に応じて科目名がIからIVまで設定してあります。

##### 2) 福祉実習

学生が自らの関心や目的に応じて福祉施設における実習先、実習内容などを先方と調整し行われる実習を福祉実習と位置付けています。第3～8セメスターで開講されます。

##### 2) インターン シップ

学生が自らの関心や目的に応じて福祉施設以外のインターンシップ先、インターンシップ内容などを先方と調整し行われる実習をインターンシップと位置付けています。第3～8セメスターで開講されます。

### 2. 実習・インターン シップの費用

別途徴収します。また、実習やインターンシップにおける滞在費・宿泊費・食費・交通費等は、全額自己負担となります。詳しくは各実習・インターンシップで説明します。

### 3. 実習・インターン シップの単位認定

各実習・インターンシップ科目を修得するには、実習先等での実習のほかに、必ず大学において事前指導と事後指導を受けます。

「資格実習」では、各資格の指定科目になっている「保育実習指導 I・II・III」、「幼稚園実習指導」「ソーシャルワーク実習指導 I・II」を履修する必要があります。詳しくは履修ガイダンス等で説明します。

「国際福祉実習」、「福祉実習」、「インターンシップ」では、原則として担当教員から事前指導、事後指導を受けることとなります。

### IV-3 演習科目の構成とその内容

#### 1. 実践系演習と 教養・研究系演習

「実技系演習」とは、保育に関する具体的な技術を修得できるように、フィールドワーク等を取り入れながら保育者として必要な実践的な力量を培います。実際の現場に即した技術を実践する形式で進められる授業です。また、具体的な援助スキルを修得できるように、講義で学んだ援助スキルを学生同士の間で実際に使ってみる形式で進められる授業です。

「教養・研究系演習」とは、大学を卒業して社会人として、また実践者として必要となる「読む」「書く」「考える」「探求する」「討議する」などの能力を養い、専門的な学修を進めることを目的としています。小グループ形式で授業を行います。

#### 2. 基礎演習Ⅰ・Ⅱ 履修シミュレーション

第1・2 Semesterに開講され、大学で学ぶための基礎的な諸能力を養い、4年間の学修の基盤を形成することを目的とします。

#### 3. 総合演習Ⅰ・Ⅱ

第6・7・8 Semesterに開講されます。学生は自分の関心に基づいてテーマを設定し、大学での学修の総括として、テーマについて担当教員の指導のもと学修を深め、最終的には成果物にまとめるなどします。

#### 4. 保育・教職実践 演習

第8 Semesterに開講されます。これまでの履修カルテや実習評価をもとに、実践者としてのスキルアップを図ります。また演習を通して社会性や対人関係能力を高め、現場に出た際の責任感や心構えを構築していくことを目的とします。

IV-4 教育課程・カリキュラムマップ・履修モデル(こども教育福祉学科)

社会福祉学部こども教育福祉学科 教育課程

区分	授業科目	共通科目	時間数	単位数	開講年次								卒業に必要な単位数			
					1年次		2年次		3年次		4年次					
					1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ				
教養	キリスト教の精神と	聖隷の理念と歴史	★	30	2	◎	◎									13単位以上
		キリスト教概論	★	30	2	◎	◎									
		キリスト教人間論	★	15	1					○	○					
		キリスト教の歴史	★	15	1	○	○									
		キリスト教倫理	★	15	1			○	○							
	学習の方法・コミュニケーション	フレッシュマンセミナー		30	1		◎									
		基礎演習Ⅰ		30	1	◎										
		基礎演習Ⅱ		30	1		◎									
		英語Ⅰ	★	30	1		◎									
		英語ⅡA	★	30	1	○	○	○	○							
		英語ⅡB	★	30	1	○	○	○	○							
		スペイン語	★	30	1	○	○	○	○							
		ポルトガル語	★	30	1	○	○	○	○							
		中国語	★	30	1	○	○	○	○							
		外国語	★	30	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		海外研修	★	30	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		情報処理Ⅰ	★	30	1	○		○								
		情報処理Ⅱ	★	30	1		○		○							
	情報処理Ⅲ	★	30	1	○	○	○	○								
	人間・こころ・健康	哲学	★	30	2	○		○								
		文学	★	30	2	○	○	○	○							
		国語表現法	★	30	2	○	○	○	○							
		心理学	★	30	2	○	○	○	○							
		倫理学	★	30	2		○		○							
		女性学	★	30	2	○		○								
レクリエーション概論		★	30	2	○	○	○	○								
音楽		★	30	1	○	○	○	○								
人間と健康			15	1		○										
スポーツⅠ		★	30	1	○	○	○	○								
スポーツⅡ	★	30	1	○	○	○	○									
社会・自然	法学	★	30	2	○	○	○	○								
	日本国憲法	★	30	2		○		○								
	経済学	★	30	2	○	○	○	○								
	教育学	★	30	2	○	○	○	○								
	社会学	★	30	2	○	○	○	○								
	現代コミュニティ論	★	30	2	○	○	○	○								
	文化人類学	★	30	2	○		○									
	生態学	★	30	2		○	○	○								
	生物学	★	30	2	○		○									
総合科目	専門職連携の基礎	★	15	1	◎											
	キャリアデザイン	★	15	1					◎							
	ボランティア論	★	15	1	○											
	ボランティア演習	★	30	1		○		○		○		○				
	大学間交流授業	★	30	2		○		○		○		○				

「開講年次」欄の◎と○は、それぞれ卒業要件のための必修科目と選択科目です。

区分	授業科目	共通科目	時間数	単位数	開講年次								卒業に必要な単位数			
					1年次		2年次		3年次		4年次					
					1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ				
専門基礎科目	キリスト教社会福祉		30	2				○						24単位以上		
	キリスト教保育		30	2				○								
	社会福祉学概論Ⅰ		30	2	◎											
	ソーシャルワーク総論Ⅰ		30	2	◎											
	ソーシャルワーク論Ⅰ		30	2		◎										
	ソーシャルワーク演習Ⅰ		30	2		◎										
	ソーシャルワーク演習Ⅱ		30	2			◎									
	保育原理		30	2		◎										
	教育原理		30	2	◎											
	保育者論		30	2	◎											
	総合演習Ⅰ		30	2						◎						
	総合演習Ⅱ		30	2							◎					
	保育・教職実践演習(幼稚園)		30	2								◎				
	専門領域	専門職連携演習	★	30	1								○			62単位以上
		児童・家庭福祉論		30	2				○							
社会的養護			30	2				○								
子どもの保健Ⅰ			30	2				○								
子どもの保健Ⅱ			30	2					○							
子どもの保健Ⅲ			15	1					○							
子どもの食と栄養			30	2		○										
家庭支援論			30	2						○						
保育内容総論			30	2						○						
乳児保育			30	2	○											
障害児保育			30	2	○											
社会的養護内容			30	1				○								
保育相談支援			30	1						○						
器楽Ⅰ			30	1		○										
器楽Ⅱ			30	1				○								
子どもの歌と伴奏			30	1						○						
子どもと音楽表現			30	1		○										
子どもと身体表現			30	1	○											
子どもと造形表現			30	1	○											
子どもと言語表現			30	1			○									
児童心理			30	2					○							
教職概論			30	2	○											
教育制度論			30	2						○						
教育課程論			30	2						○						
教育方法論			30	2						○						
幼児教育相談			30	2						○						
保育内容(健康)			30	2				○								
保育内容(言葉)			30	2				○								
保育内容(人間関係)			30	2					○							
保育内容(環境)			30	2				○								
保育内容(表現)			30	2					○							
子どもと生活			30	2	○											
社会福祉学概論Ⅱ			30	2						○						
ソーシャルワーク総論Ⅱ			30	2		○										
ソーシャルワーク論Ⅱ			30	2			○									
社会保障論Ⅰ			30	2					○							
社会保障論Ⅱ			30	2						○						
公的扶助論			30	2				○								
ソーシャルワーク論Ⅲ			30	2				○								
ソーシャルワーク論Ⅳ			30	2						○						
ソーシャルワーク演習Ⅲ			30	2				○								
ソーシャルワーク演習Ⅳ			30	2					○							
ソーシャルワーク演習Ⅴ		30	2						○							
ソーシャルワーク演習Ⅵ		15	1							○						

区分	授業科目	共通科目	時間数	単位数	開講年次								卒業に必要な単位数			
					1年次		2年次		3年次		4年次					
					1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ				
専門領域	専門科目	ソーシャルワーク実習	180	4						○						
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	30	1				○								
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	60	2							○					
		発達心理学	30	2			○									
		教育心理学	30	2							○					
		子育て環境論	30	2					○							
		子どもケアワーク論	30	2					○							
		発達障害児の理解	30	2							○					
		発達障害児の支援	30	2								○				
		親支援方法論	30	2												○
		高齢者福祉論	30	2					○							
		介護福祉論	30	2					○							
		障害者福祉論	30	2					○							
		地域福祉論Ⅰ	30	2					○							
		地域福祉論Ⅱ	30	2						○						
		医学概論	30	2						○						
		社会福祉発達史	30	2						○						
		社会福祉経営論	30	2								○				
		福祉文化論	30	2									○			
		医療福祉論	30	2								○				
		社会福祉行政論	15	1							○					
		福祉計画論	15	1							○					
		就労支援論	15	1						○						
		司法福祉論	15	1								○				
		社会調査論	30	2								○				
		臨床心理学	30	2						○						
		レクリエーション活動の実際	30	2							○					
		福祉レクリエーション論	30	2									○			
		福祉レクリエーション援助論	30	2										○		
		福祉レクリエーション援助技術	30	2											○	
		絵画と表現	30	2												○
		音楽と身体表現	30	1								○				
		トップマネジメント論	30	2									○			
		保育実習指導Ⅰ	60	2						○						
		保育実習指導Ⅱ	15	1								○				
		保育実習指導Ⅲ	15	1								○				
		保育実習ⅠA	90	2						○						
		保育実習ⅠB	90	2							○					
		保育実習Ⅱ	90	2								○				
		保育実習Ⅲ	90	2									○			
		幼稚園実習指導	45	1										○		
		幼稚園実習Ⅰ	90	2										○		
		幼稚園実習Ⅱ	90	2										○		
		国際福祉実習Ⅰ	90	2						○	○	○	○	○	○	
		国際福祉実習Ⅱ	90	2						○	○	○	○	○	○	
国際福祉実習Ⅲ	90	2						○	○	○	○	○	○			
国際福祉実習Ⅳ	90	2						○	○	○	○	○	○			
インターンシップⅠ	90	2						○	○	○	○	○	○			
インターンシップⅡ	90	2						○	○	○	○	○	○			
福祉実習Ⅰ	90	2						○	○	○	○	○	○			
福祉実習Ⅱ	90	2						○	○	○	○	○	○			

62単位以上

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)										
(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。	(4)設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。	(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。						
1 年 次	共17-D1-1-教養基礎-1 共17-D1-1-教養基礎-2 共17-D1-1-教養基礎-3 共17-D1-1-教養基礎-4 共17-D1-1-教養基礎-5 共17-D1-1-教養基礎-6 共17-D1-1-教養基礎-7 共17-D1-1-教養基礎-8 共17-D1-1-教養基礎-9 共17-D1-1-教養基礎-10 共17-D1-1-教養基礎-11 共17-D1-1-教養基礎-12 共17-D1-1-教養基礎-13 共17-D1-1-教養基礎-14 共17-D1-1-教養基礎-15 共17-D1-1-教養基礎-16 共17-D1-1-教養基礎-17 共17-D1-1-教養基礎-18 共17-D1-1-教養基礎-19 共17-D1-1-教養基礎-20 共17-D1-1-教養基礎-21 共17-D1-1-教養基礎-22 SCI7-D1-1-教養基礎-1 SCI7-D1-1-教養基礎-2	聖徳の理念と歴史 キリスト教概論 キリスト教人間論 キリスト教の歴史 キリスト教倫理 哲学 文学 心理学 倫理学 女性学 レクリエーション概論 音楽 スポーツⅠ スポーツⅡ 法学 日本国憲法 経済学 教育学 社会学 現代コミュニティ論 専門職連携の基礎 ボランティア論 人間と健康 ボランティア演習	共17-D2-1-教養基礎-1 共17-D2-1-教養基礎-2 共17-D2-1-教養基礎-3 共17-D2-1-教養基礎-4 共17-D2-1-教養基礎-5 共17-D2-1-教養基礎-6 共17-D2-1-教養基礎-7 共17-D2-1-教養基礎-8 共17-D2-1-教養基礎-9 共17-D2-1-教養基礎-10 共17-D2-1-教養基礎-11 共17-D2-1-教養基礎-12 共17-D2-1-教養基礎-13 共17-D2-1-教養基礎-14 共17-D2-1-教養基礎-15 共17-D2-1-教養基礎-16 共17-D2-1-教養基礎-17 共17-D2-1-教養基礎-18 共17-D2-1-教養基礎-19 共17-D2-1-教養基礎-20	文化人類学 生態学 生物学 大学間交流授業 社会福祉学概論Ⅰ ソーシャルワーク総論Ⅰ ソーシャルワーク論Ⅰ 保育原理 保育者論 子どもの食と栄養 音楽Ⅰ 子どもと音楽表現 子どもと身体表現 子どもと造形表現 幼児教育相談 ソーシャルワーク総論Ⅱ 介護福祉論 医学概論	共17-D3-1-教養基礎-1 共17-D3-1-教養基礎-2 共17-D3-1-教養基礎-3 共17-D3-1-教養基礎-4 共17-D3-1-教養基礎-5 共17-D3-1-教養基礎-6 共17-D3-1-教養基礎-7 共17-D3-1-教養基礎-8 共17-D3-1-教養基礎-9 共17-D3-1-教養基礎-10 共17-D3-1-教養基礎-11 共17-D3-1-教養基礎-12 SCI7-D3-1-教養基礎-1 SCI7-D3-1-教養基礎-2 SCI7-D3-1-教養基礎-3 SCI7-D3-1-教養基礎-4	英語Ⅰ 英語ⅡA 英語ⅡB スペイン語 ポルトガル語 中国語 外国語 情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱ 情報処理Ⅲ 国語表現法 海外研修 フレッションセミナー 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅰ				
2 年 次	SCI7-D2-2-専門基礎-1 SCI7-D2-2-専門基礎-2	キリスト教社会福祉 キリスト教保育	SCI7-D2-2-専門-1 SCI7-D2-2-専門-2 SCI7-D2-2-専門-3 SCI7-D2-2-専門-4 SCI7-D2-2-専門-5 SCI7-D2-2-専門-6 SCI7-D2-2-専門-7 SCI7-D2-2-専門-8 SCI7-D2-2-専門-9 SCI7-D2-2-専門-10 SCI7-D2-2-専門-11 SCI7-D2-2-専門-12 SCI7-D2-2-専門-13 SCI7-D2-2-専門-14 SCI7-D2-2-専門-15 SCI7-D2-2-専門-16 SCI7-D2-2-専門-17 SCI7-D2-2-専門-18 SCI7-D2-2-専門-19 SCI7-D2-2-専門-20 SCI7-D2-2-専門-21 SCI7-D2-2-専門-22	児童家庭福祉論 社会的養護 子どもの保健Ⅰ 子どもの保健Ⅱ 子どもの保健Ⅲ 社会的養護内容 音楽Ⅱ 保育内容(健康) 保育内容(言葉) 保育内容(環境) 保育内容(表現) ソーシャルワーク論Ⅱ 公的扶助論 ソーシャルワーク論Ⅲ 発達心理学 高齢者福祉論 障害者福祉論 地域福祉論Ⅰ 地域福祉論Ⅱ 社会福祉発達史 就労支援論 臨床心理学	SCI7-D4-2-専門-1 SCI7-D4-2-専門-2	子育て環境論 子どもケアワーク論	SCI7-D5-2-専門-1 SCI7-D5-2-専門-2	保育実習指導Ⅰ インターンシップⅠ		
3 年 次	SCI7-D1-3-専門-1 SCI7-D1-3-専門-2 SCI7-D1-3-専門-3 SCI7-D1-3-専門-4 SCI7-D1-3-専門-5 SCI7-D1-3-専門-6 SCI7-D1-3-専門-7	レクリエーション活動の実際 音楽と身体表現 国際福祉実習Ⅰ 国際福祉実習Ⅱ 国際福祉実習Ⅲ 国際福祉実習Ⅳ インターンシップⅡ	SCI7-D2-3-専門-1 SCI7-D2-3-専門-2 SCI7-D2-3-専門-3 SCI7-D2-3-専門-4 SCI7-D2-3-専門-5 SCI7-D2-3-専門-6 SCI7-D2-3-専門-7 SCI7-D2-3-専門-8 SCI7-D2-3-専門-9 SCI7-D2-3-専門-10 SCI7-D2-3-専門-11 SCI7-D2-3-専門-12 SCI7-D2-3-専門-13 SCI7-D2-3-専門-14 SCI7-D2-3-専門-15 SCI7-D2-3-専門-16 SCI7-D2-3-専門-17 SCI7-D2-3-専門-18	家庭支援論 保育内容総論 保育相談支援 子どもと音楽表現 子どもと言語表現 児童心理 保育内容(人間関係) 社会福祉学概論Ⅱ 社会保障論Ⅰ 社会保障論Ⅱ ソーシャルワーク論Ⅳ 教育心理学 発達障害児の理解 社会福祉経営論 医療福祉論 社会福祉行政論 司法福祉論 音楽と身体表現	SCI7-D3-3-専門基礎-1 SCI7-D3-3-専門-1	ソーシャルワーク演習Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	SCI7-D4-3-教養基礎-1 SCI7-D4-3-専門-1 SCI7-D4-3-専門-2 SCI7-D4-3-専門-3	キャリアデザイン ソーシャルワーク演習Ⅲ 福祉計画論 社会調査論	SCI7-D5-3-専門基礎-1 SCI7-D5-3-専門-1 SCI7-D5-3-専門-2 SCI7-D5-3-専門-3 SCI7-D5-3-専門-4 SCI7-D5-3-専門-5 SCI7-D5-3-専門-6 SCI7-D5-3-専門-7 SCI7-D5-3-専門-8 SCI7-D5-3-専門-9 SCI7-D5-3-専門-10	総合演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅳ ソーシャルワーク実習 ソーシャルワーク実習指導Ⅱ 発達障害児の支援 保育実習指導Ⅱ 保育実習指導Ⅲ 保育実習ⅠA 保育実習ⅠB 福祉実習Ⅰ 福祉実習Ⅱ
4 年 次			SCI7-D2-4-専門-1 SCI7-D2-4-専門-2 SCI7-D2-4-専門-3 SCI7-D2-4-専門-4	親支援方法論 福祉文化論 福祉レクリエーション論 絵画と表現			福祉レクリエーション援助論	SCI7-D5-4-専門基礎-1 SCI7-D5-4-専門-1 SCI7-D5-4-専門-2 SCI7-D5-4-専門-3	総合演習Ⅱ 福祉レクリエーション援助技術 保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ	

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)

(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。		(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。		1.教育に関する確かな知識・理論や技能及び豊かな表現力を身につけている。		2.教育者としてのふさわしい教養を身につけて、使命感と責任感に基づいた確かな実践力を備えている。	
1 年 次		SC17-D7-1-専門-1 SC17-D7-1-専門-2 SC17-D7-1-専門-3	子どもと生活 乳児保育 障害児保育	SC17-D8-1-専門基礎-1 SC17-D8-1-専門-1	教育原理 教職概論		
2 年 次							
3 年 次		SC17-D7-3-専門-1	ソーシャルワーク演習V	SC17-D8-3-専門-1 SC17-D8-3-専門-2 SC17-D8-3-専門-3 SC17-D8-3-専門-4 SC17-D8-3-専門-5	教育制度論 教育課程論 教育方法論 幼稚園実習指導 幼稚園実習I	SC17-D9-3-専門-1	幼稚園実習指導
4 年 次	SC17-D6-4-専門-1 SC17-D6-4-専門-2 SC17-D6-4-専門-3	専門職連携演習 ソーシャルワーク演習VI トップマネジメント論				SC17-D9-4-専門基礎-1 SC17-D9-4-専門-1	保育・教職実践演習(幼稚園) 幼稚園実習II

履修モデル (こども教育福祉学科)

●保育士取得のための科目  
▲幼稚園教諭I種免許状取得のための科目  
■社会福祉士取得のための科目

必修科目 (ゴシック)  
選択科目 (斜字)

年次	1年次		2年次		3年次		4年次		
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
専 門 領 域	本質・目的	●■社会福祉学概論I ●保育者論 ●▲教育原理	●■ソーシャルワーク演習I ●保育原理	●■ソーシャルワーク演習II ●■児童・家庭福祉論 ●社会的養護	キリスト教社会福祉 キリスト教保育				
	対象の理解		●子どもの食と栄養	●▲発達心理学 ●子どもの保健I	●▲臨床心理学 ●子どもの保健II ●子どもの保健III	●▲児童心理 ●家庭支援論	●▲教育心理学		
	内容・方法	●乳児保育 ●▲障害児保育 ●▲子どもと生活		●▲保育内容(健康) ●▲保育内容(言葉)	●社会的養護内容 ●▲保育内容(表現)	●▲保育内容総論 ●▲保育内容(人間関係)	●▲教育課程論 ●保育相談支援		
	表現技術	●▲子どもと身体表現 ●▲子どもと造形表現 ●▲器楽I ●▲子どもと音楽表現		●▲子どもと言語表現	●▲器楽II		●▲音楽と身体表現 ●▲子どもの歌と伴奏	●▲絵画と表現	
	幼・教職他	▲教職概論			子育て環境論 子どもケアワーク論	▲教育方法論 ▲幼児教育相談 発達障害児の理解	▲教育制度論 発達障害児の支援	親支援方法論	
	社会福祉士指定科目	●■ソーシャルワーク総論I ●■ソーシャルワーク総論II ●■介護福祉論 ●■医学概論	●■ソーシャルワーク論I ●■ソーシャルワーク総論II	●■ソーシャルワーク論II ●■高齢者福祉論 ●■障害者福祉論 ●■地域福祉論I	●■ソーシャルワーク論III ●■ソーシャルワーク演習III ●■公的扶助論 ●■地域福祉論II ●■就労支援論	●■ソーシャルワーク演習IV ●■社会保障論I ●■社会福祉行政論 ●■福祉計画論	●■社会福祉学概論II ●■ソーシャルワーク論IV ●■ソーシャルワーク演習V ●■社会保障論II ●■医療福祉論 ●■社会調査論 ●■社会福祉経営論 ●■司法福祉論	●■ソーシャルワーク演習VI	
	関連科目			社会福祉発達史	レクリエーション活動の実際		福祉文化論 福祉レクリエーション論 トップマネジメント論	福祉レクリエーション援助論 福祉レクリエーション援助技術	
	実習科目			●保育実習IA ●保育実習指導I	●保育実習IB ●保育実習指導I	●保育実習II・III ●保育実習指導II・III	▲幼稚園実習I・II ▲幼稚園実習指導		
	演習科目	基礎演習I フレッシュマンセミナー 専門職連携の基礎	基礎演習II		■ソーシャルワーク実習指導I	■ソーシャルワーク実習 ■ソーシャルワーク実習指導II		総合演習I	総合演習II 専門職連携演習 ●▲保育・教職実践演習
	教養基礎領域	- 聖隷の精神とキリスト教 - ●聖隷の理念と歴史 ●キリスト教概論 キリスト教の歴史 キリスト教倫理		- 学習の方法・コミュニケーション - ●▲英語I・IIA・IIB ●▲スペイン語 ●▲ポルトガル語 ●▲中国語 ●▲外国語 ▲海外研修 ▲情報処理I・II・III		- 人間・こころ・健康 - 哲学 文学 ▲国語表現法 ●■心理学 ▲倫理学 女性学 ●▲レクリエーション概論 ●▲音楽 ●▲スポーツI・II ●▲人間と健康		- 社会・自然 - ●■法学 ●▲日本国憲法 経済学 ▲教育学 ●■社会学 現代コミュニティ論 文化人類学 生態学 生物学 - 総合科目 - キャリアデザイン ボランティア論 ボランティア演習 大学間交流授業	

## IV-5 卒業に必要な単位数

**1. 卒業の資格**  
(学則 39・40 条)

卒業の資格は、所定の修業年限以上在学し、学則に定める卒業に必要な単位を修得した者に与えられます。

**2. 卒業に必要な単位数の内訳**  
(学則 29 条  
別表 1-2, 1-5  
・39 条 2 項)

こども教育福祉学科

教養基礎領域 計 30 単位 (必修 10 単位)	聖隷の精神とキリスト教	13 単位 (必修 8 単位)
	学習の方法・コミュニケーション	
	人間・こころ・健康	17 単位 (必修 2 単位)
	社会・自然	
	総合科目	
専門領域 86 単位 (必修 22 単位)	専門基礎科目	24 単位 (必修 22 単位)
	専門科目	62 単位
上記に加え教養基礎領域・専門領域から 9 単位		9 単位
卒業に必要な単位数		125 単位 (必修 32 単位)

## IV-6 保育士・社会福祉士資格の取得

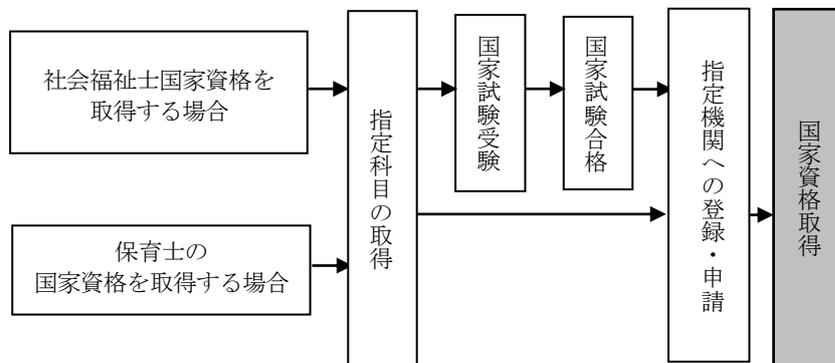
### 1. 保育士・社会福祉士の資格取得

#### 1. 国家試験受験資格と登録資格

「保育士」「社会福祉士」は「国家資格」と呼ばれます。保育士資格取得には、厚生労働大臣の指定する保育士を養成する大学を卒業する方法、都道府県が実施する保育士試験に合格する方法があります。保育士として働く場合は、登録事務処理センターに保育士登録をする必要があります。本学科は国から養成校として認可を受けているので、本学科で資格取得に必要な科目を履修して卒業すると、「保育士」の「登録資格」を取得することができます。

社会福祉士資格を取得するためには、国家試験を受験し、合格する必要があります。そして、国家試験の受験資格を得るためには、大学や養成校などで一定の科目を修得しなければなりません。これを「国家試験受験資格」の取得と言います。本学開講科目を履修し単位を修得すると「社会福祉士国家試験受験資格」を取得することができます。

その大まかな流れは以下の通りです。



#### 2. 各資格の職務

「保育士」「社会福祉士」という国家資格を持つ人の職務は、つぎのように各法律（「児童福祉法」「社会福祉士及び介護福祉士法」）で定められています。

保育士	保育士は、登録を受け、保育士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもって、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを職務とする。
社会福祉士	社会福祉士は、専門的知識及び技術を持って、身体上若しくは精神上の障害があること又は環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供する者又は医師その他の保健医療サービスを提供する者その他の関係者との連絡及び調整その他の援助を行うことを職務とする。

## 2. 保育士・社会福祉士の指定科目

### 1. 保育士の指定科目一覧

「保育士」の国家資格を得るためには、必ず履修しなければならない科目が決められています。これを「指定科目」と呼びます。厚生労働省令で定める各資格の「指定科目」は以下のとおりです。

本学科において「指定科目」を修めるためには、次の表に示す科目を履修し、単位を修得してください。

指定科目	本学開講科目	単位	備考	
教養科目	外国語・体育以外の科目	聖隷の理念と歴史	2	6単位以上を履修する
		キリスト教概論	2	
		心理学	2	
		社会学	2	
		法学	2	
		日本国憲法	2	
		レクリエーション概論	2	
	外国語	英語 I	1	
		英語 II A	1	
		英語 II B	1	
		スペイン語	1	
		ポルトガル語	1	
	体育	人間と健康	1	
スポーツ I		1		
スポーツ II		1		

指定科目	本学開講科目	単位	備考	
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	保育原理	2	すべて履修する
	教育原理	教育原理	2	
	児童家庭福祉	児童・家庭福祉論	2	
	社会福祉	社会福祉学概論 I	2	
	相談援助	ソーシャルワーク演習 I	2	
		ソーシャルワーク演習 II	2	
	社会的養護	社会的養護	2	
	保育者論	保育者論	2	
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学 I	発達心理学	2	
	保育の心理学 II	教育心理学	2	
	子どもの保健 I・子どもの保健 II	子どもの保健 I	2	
		子どもの保健 II	2	
	子どもの食と栄養	子どもの保健 III	1	
		子どもの食と栄養	2	
	家庭支援論	家庭支援論	2	
保育の内容・方法に関する科目	保育課程論	教育課程論	2	
	保育内容総論	保育内容総論	2	
		保育内容(健康)	2	
		保育内容(言葉)	2	
		保育内容(人間関係)	2	
		保育内容(環境)	2	
	保育内容(表現)	2		
	乳児保育	乳児保育	2	
	障害児保育	障害児保育	2	
	社会的養護内容	社会的養護内容	1	
保育相談支援	保育相談支援	1		
保育の表現技術	保育の表現技術	子どもと音楽表現	1	
		子どもと身体表現	1	
		子どもと造形表現	1	
		子どもと言語表現	1	
保育実習	保育実習 I	保育実習 I A	2	
		保育実習 I B	2	
		保育実習指導 I	2	
総合演習	保育実践演習	保育・教職実践演習(幼稚園)	2	
保育の本質・目的に関する科目	(各保育士養成施設において設定)	社会福祉学概論 II	2	6単位以上を履修する
		保育の対象の理解に関する科目	ソーシャルワーク論 I	
ソーシャルワーク論 II			2	
臨床心理学			2	
保育の内容・方法に関する科目		児童心理	2	
		子どもと生活	2	
		音楽	1	
		絵画と表現	2	
		音楽と身体表現	1	
		器楽 I	1	
		器楽 II	1	
子どもの歌と伴奏		1		
保育の表現技術		保育実習 II 又は保育実習 III	保育実習 II	
	保育実習 III		2	
	保育実習指導 II 又は保育実習指導 III		1	
	保育実習指導 III		1	

## 2. 社会福祉士の指定科目一覧

「社会福祉士」の国家試験受験資格を得るためには、必ず履修しなければならない科目が決められています。これを「指定科目」と呼びます。厚生労働省令で定める各資格の「指定科目」は以下のとおりです。

本学科において「指定科目」を修めるためには、次の表に示す本学開講科目を全て履修し、単位を修得してください。

(ただし、受験資格として \* 印の科目から1科目)

指定科目	本学開講科目	単位
人体の構造と機能及び疾病	医学概論	2
心理学理論と心理的支援	心理学	2
社会理論と社会システム	社会学	2
現代社会と福祉	社会福祉学概論Ⅰ	2
	社会福祉学概論Ⅱ	2
社会調査の基礎	社会調査論	2
相談援助の基盤と専門職	ソーシャルワーク総論Ⅰ	2
	ソーシャルワーク総論Ⅱ	2
相談援助の理論と方法	ソーシャルワーク論Ⅰ	2
	ソーシャルワーク論Ⅱ	2
	ソーシャルワーク論Ⅲ	2
	ソーシャルワーク論Ⅳ	2
地域福祉の理論と方法	地域福祉論Ⅰ	2
	地域福祉論Ⅱ	2
福祉行財政と福祉計画	社会福祉行政論	1
	福祉計画論	1
福祉サービスの組織と経営	社会福祉経営論	2
社会保障	社会保障論Ⅰ	2
	社会保障論Ⅱ	2

指定科目	本学開講科目	単位
高齢者に対する支援と介護保険制度	高齢者福祉論	2
	介護福祉論	2
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者福祉論	2
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	児童・家庭福祉論	2
低所得者に対する支援と生活保護制度	公的扶助論	2
保健医療サービス	医療福祉論	2
就労支援サービス	就労支援論	1
権利擁護と成年後見制度	法学	2
更生保護制度	司法福祉論	1
相談援助演習	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	2
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	2
	ソーシャルワーク演習Ⅵ	1
相談援助実習指導	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2
相談援助実習	ソーシャルワーク実習	4

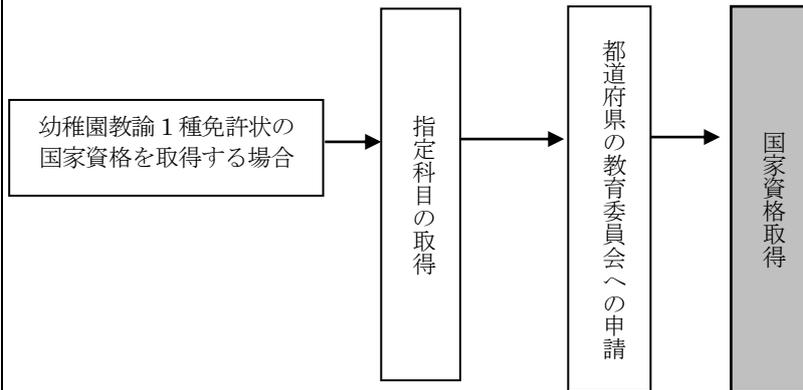
## IV-7 幼稚園教諭1種免許状の取得（教職課程）

### 1. 幼稚園教諭1種免許状の資格取得

#### 1. 幼稚園教諭1種免許状

幼稚園教諭1種免許状取得には、4年制大学で必要な単位を修得して卒業する方法、2種免許取得後、教職経験を5年以上積み、その他一定の要件を満たして得る方法があります。本学科で所定の単位を履修し、各都道府県の教育委員会に申請すると、「幼稚園教諭1種免許状」を得ることができます。

その大まかな流れは以下の通りです。



#### 2. 幼稚園教諭の職務

「幼稚園教諭1種免許状」という国家資格を持つ人の職務は、「学校教育法」に基づいて定められています。

1 幼稚園教諭 1種免許状	幼稚園教諭は、幼稚園において園児の教育・保育をつかさどることを職務とする。
------------------	---------------------------------------

## 2. 幼稚園教諭 1 種免許状の指定科目

### 1. 幼稚園教諭 1 種免許状の指定科目一覧

指定科目		本学開講科目	単位	備考
幼・教科に関する科目	国語	国語表現法	2	6 単位以上を履修する ※3
		子どもと言語表現	1	
	生活	子どもと生活	2	
		音楽	音楽	
	器楽 I		1	
	器楽 II		1	
	子どもの歌と伴奏		1	
	子どもと音楽表現		1	
	図画工作	子どもと造形表現	1	
		絵画と表現	2	
	体育	子どもと身体表現	1	
これら科目に含まれる内容を合わせた内容に係る科目その他これら科目に準ずる内容の科目		レクリエーション概論	2	
教職免許法施行規則第66条の6に定める科目	日本国憲法	日本国憲法	2	必ず履修する
	体育	人間と健康	1	2 単位以上を履修する
		スポーツ I	1	
		スポーツ II	1	
	外国語コミュニケーション	英語 I	1	2 単位以上を履修する
		英語 II A	1	
		英語 II B	1	
		スペイン語	1	
		ポルトガル語	1	
		中国語	1	
	情報機器の操作	海外研修	1	2 単位以上を履修する
情報処理 I		1		
情報処理 II		1		
教科又は教職に関する科目	教科又は教職に関する科目	情報処理 III	1	
		倫理学	2	※4
幼・教職に関する科目	教育の基礎理論に関する科目	臨床心理学	2	
		発達心理学	2	
		児童心理	2	
		教育学	2	
		教育原理	2	
		教育心理学	2	
		教育制度論	2	
	教職の意義等に関する科目	教職概論	2	
		教育課程及び指導法に関する科目	教育課程論	2
	保育内容総論		2	
	保育内容(健康)		2	
保育内容(言葉)	2			
保育内容(人間関係)	2			
保育内容(環境)	2			
保育内容(表現)	2			
障害児保育	2			
教育方法論	2			
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	幼児教育相談	2		
教職実践演習	保育・教職実践演習(幼稚園)	2		
教育実習	幼稚園実習指導	1		
	幼稚園実習 I	2		
	幼稚園実習 II	2		

さらに、最低修得単位を超えて履修した※3の科目、または※4の科目から併せて10単位以上を履修する必要があります。

## IV-8 その他の資格取得

### 1. 社会福祉主事

#### 1. 社会福祉主事とは

社会福祉主事は、社会福祉行政の第一線の現業機関である福祉事務所で仕事をする際に必要となる資格です。この資格は「任用資格」とよばれ、公務員になり福祉事務所の職員として任用されるときに必要となります。

#### 2. 指定科目

社会福祉士の指定科目を履修すれば付与されます。

### 2. 児童指導員

#### 1. 児童指導員とは

児童指導員は、児童福祉施設で仕事をする際に必要となる資格です。この資格は「任用資格」とよばれ、公務員になり児童福祉施設の職員として任用されるときに必要となります。

#### 2. 指定科目

「指定科目」はありません。本学科を卒業すれば自動的に付与されます。

### 3. 福祉レクリエーション・ワーカー

#### 1. 福祉レクリエーション・ワーカーとは

「福祉レクリエーション・ワーカー」は、対象者一人ひとりの「楽しさの追求」を通して、「生きがいや張り合いのある生活」や「生きる喜び・生きる力の獲得」を支援できる人材を養成することを目的とした資格です。

介護職員、生活相談員、ケアマネージャー、施設長、理学療法士、作業療法士、ホームヘルパー、保育士、幼稚園教諭、ボランティア（介護予防・子育て支援事業）など、たくさんの方が資格を取得しています。この資格は、財団法人日本レクリエーション協会の「認定資格」となっています。

<習得できる知識と技術>

- ・ 対象者一人ひとりの欲求やニーズ、状況などを把握する力
- ・ 対象者の状況に合わせたレクリエーション支援プランを立てる力
- ・ レクリエーション支援プランを実行・評価する力
- ・ 対象者の意欲を引き出すコミュニケーション能力
- ・ 対象者との1対1の関わりを、対象者同士のふれ合い、支え合いへと広げる力
- ・ レクリエーション支援プランの達成に向けて他職種と連携を図る力 など

#### 2. 指定科目

本学科でこの資格を取得するには、「指定科目」を履修し、第8セメスターに学内で行う資格認定審査(筆記試験・実技試験)に合格する必要があります。

なお、資格認定審査及び資格の登録には、財団法人日本レクリエーション協会が定める関係費用が必要になります。

	指定科目	履修時間及び 単位数	本学開講科目	単 位	備考
レクリエーション支援のための基礎的な理解	レクリエーション理論	2単位以上	レクリエーション概論	2	
	レクリエーション実技	2単位以上	A レクリエーション活動の実際 B { スポーツⅠ スポーツⅡ 音楽 絵画と表現 音楽と身体表現	2 1 1 1 2 1	A 1科目と B群の中から 1科目以上
レクリエーション支援のための福祉領域の基礎知識	支援対象者の生活の理解	3科目 3単位 以上	A { 高齢者福祉論 障害者福祉論 児童・家庭福祉論 B { 医学概論 子どもの保健Ⅰ C { 心理学 児童心理	2 2 2 2 2 2	各群から 1科目以上
	社会と福祉サービスの理解	2科目 2単位 以上	A 社会福祉学概論Ⅰ B ソーシャルワーク総論Ⅰ	2 2	
福祉レクリエーション支援の専門知識・支援技術	福祉レクリエーション支援の理解	2科目以上 5単位以上	福祉レクリエーション論	2	
	福祉レクリエーション支援の計画		福祉レクリエーション援助論	2	
	福祉レクリエーション支援の介入技術		福祉レクリエーション援助技術	2	
	福祉レクリエーション支援の総合演習				
福祉レクリエーション支援実習	1科目以上 2単位以上	保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ ソーシャルワーク実習	2 2 4	1科目以上	